



2021年度第3四半期決算

(2021年4月1日～2021年12月31日)

ご説明資料

2022年1月27日



 山陽特殊製鋼株式会社



<http://www.sanyo-steel.co.jp>

目次

1. 2021FY第3四半期決算の概況

損益の概要

特殊鋼の需要動向、原燃料価格の推移

業績推移(四半期)

経常利益の変化要因(2020FY 4-12月期→2021FY 4-12月期、2021FY2Q→2021FY3Q)

セグメント別損益

貸借対照表、関係会社預け金について

2. 業績予想等

2021FY通期業績予想

2021FY配当予想

経常利益の変化要因(2021FY前回予想→2021FY今回予想、2021FY3Q→2021FY4Q予想、
2021FY上期→2021FY下期今回予想)

Ovako業績、MSSS業績

業績推移(年度)、設備投資・減価償却費の推移、D/Eの推移

3. 2050年カーボンニュートラル（CN）実現に向けた取り組み

4. トピックス

5. 参考資料

Ovakoの決算期変更について

主要市場動向、軸受在庫循環図

損益の詳細、TCFDシナリオ分析、バリューチェーンにおけるCO₂排出量

1. 2021FY第3四半期決算の概況

損益の概要 (対2020FY4-12月期)

1. 2021FY4-12月期業績概要

連結経常利益145億円(前年同期比+212億円) … 4-12月期では過去最高益

- ・原燃料価格上昇の影響、固定費の戻り等はあったが、売上数量の増加、販売価格の改善、変動費コストダウン、グループ会社の収益改善等により前年同期比増益。

[Ovakoおよびのれん償却費は、2021年度からの決算期変更に伴い、12ヵ月間(2021年1~12月)の数値を連結]

(参考) 2021FY/4-12月期の売上数量…Ovakoは2021/1~12月期の売上数量(1~3月は決算期変更影響)、MSSSは2021/1~9月期の売上数量

	2021FY/4-12月期(A)		2020FY/4-12月期(B)		増減(A)-(B)		
	金額	売上高比率	金額	売上高比率	金額	増減率	
売上数量(千t)	1,542	152.1/月	967	107.4/月	+575	+44.7/月	
内、当社単独	763	84.8/月	478	53.1/月	+285	+31.7/月	
内、Ovako	1-3月 178 4-12月 513	691	57.6/月	427	47.4/月	+264	+10.2/月
内、MSSS	88	9.7/月	62	6.9/月	+26	+2.9/月	

2. 損益計算書 (対2020FY/4-12月期)

(単位:億円、%)

	2021FY/4-12月期(A)		2020FY/4-12月期(B)		対前年同期(A)-(B)		
	金額	売上高比率	金額	売上高比率	金額	増減率	
売上高	2,693	100.0	1,487	100.0	+1,206	+81.1	
営業利益	144	5.4	▲65	-4.4	+209	-	
経常利益	145	ROS 5.4	▲67	ROS -4.5	+212	-	
内、当社単独	75	6.1	▲5	-	+80	-	
内、Ovako(注1)	1-3月 25 4-12月 61	86	6.7	▲24	-	+110	-
内、MSSS(注2)	3	2.7	▲11	-	+14	-	
内、のれん償却費	1-3月 ▲7 4-12月 ▲20	▲27	-	▲19	-	-8	-
税後利益(注3)	102	3.8	▲59	-3.9	+160	-	
のれん償却費を除く税後利益	129	4.8	▲39	-2.6	+168	-	

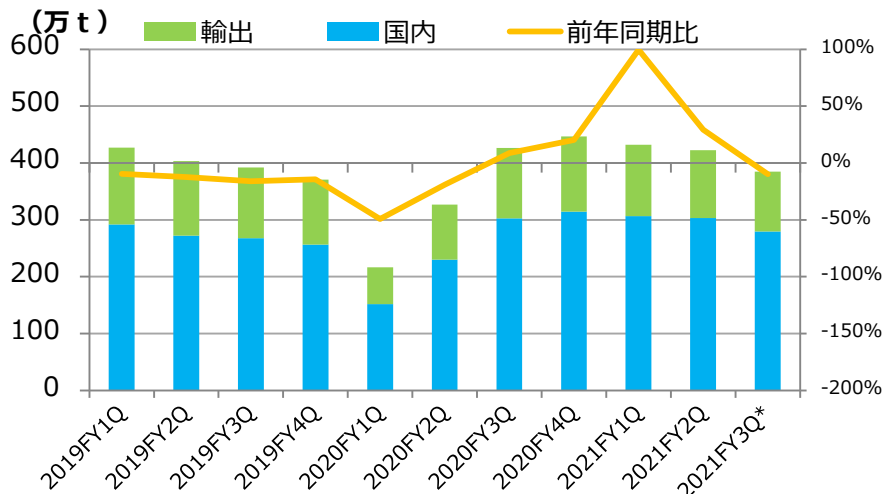
(注1) Ovakoは、2021年1~12月期を連結 (注2) MSSSは、2021年1~9月期を連結 (注3) 親会社株主に帰属する四半期純利益

特殊鋼の需要動向

特殊鋼需要は主要需要分野で堅調だったが、自動車減産、在庫調整影響が現出

■ 特殊鋼受注数量

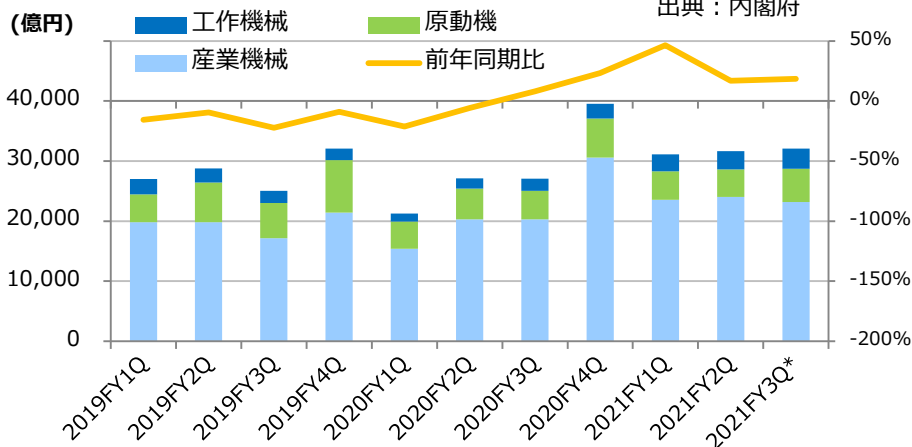
出典：一般社団法人 日本鉄鋼連盟



※ 2021FY3Q値は10,11月値計×1.5により当社算定

■ 産業機械、工作機械、原動機の機種別受注額

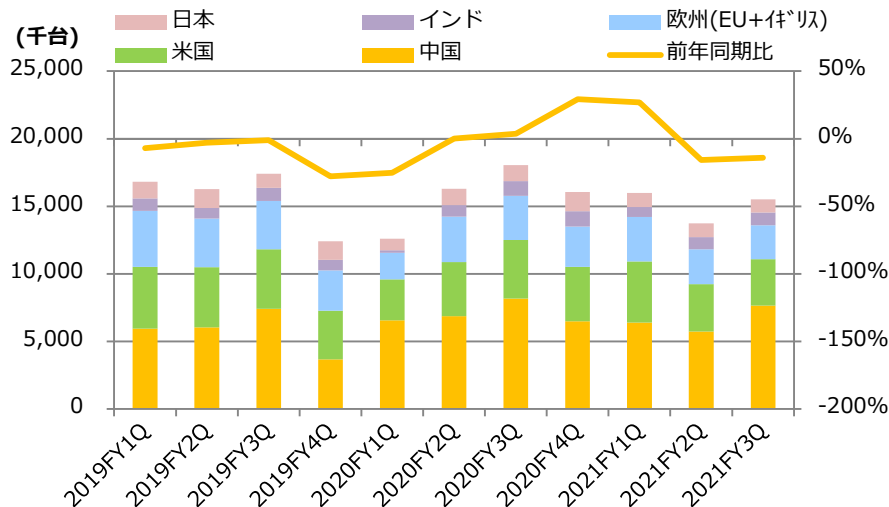
出典：内閣府



※ 2021FY3Q値は10,11月値計×1.5により当社算定

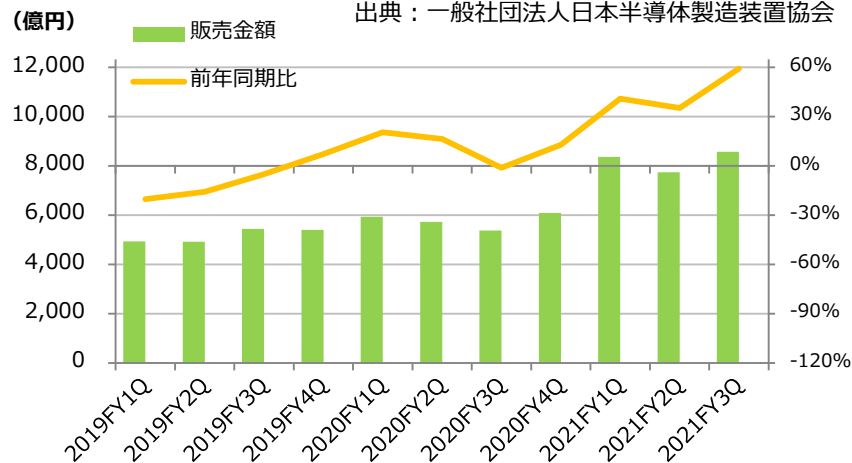
■ 主要国自動車販売台数

出典：マークラインズ、ACEA



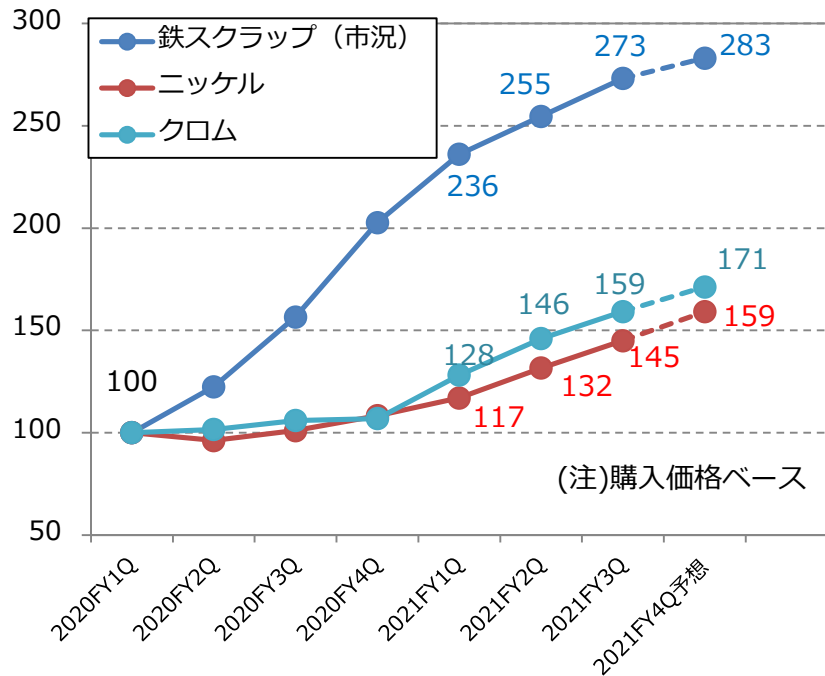
■ 半導体製造装置販売金額

出典：一般社団法人日本半導体製造装置協会

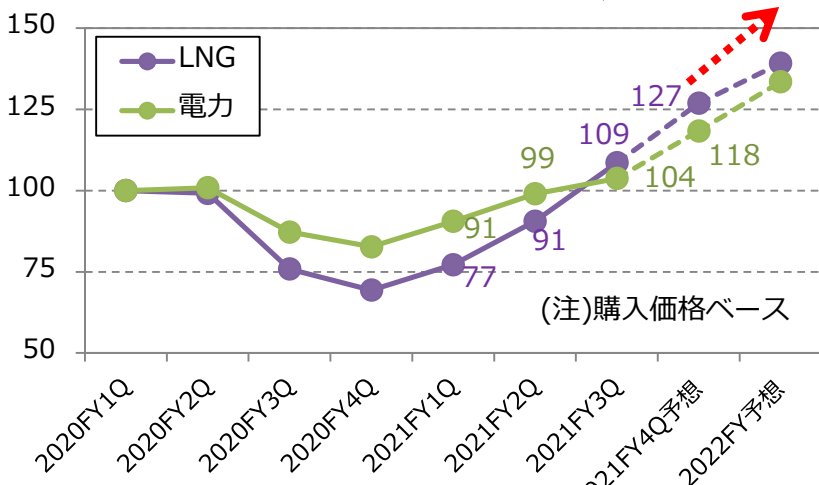


原燃料価格の推移

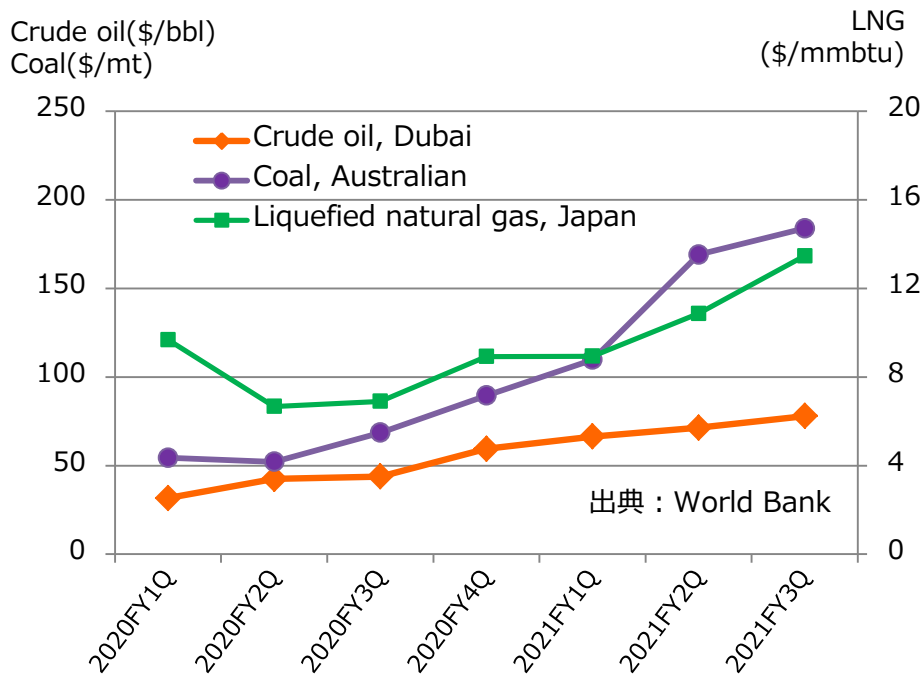
■ 原燃料価格の動向 (2020FY1Qを100とした指数表示)



- 鉄スクラップ価格は、国内粗鋼生産の高位推移や中国の上級スクラップの輸入再開などにより需給が逼迫し高騰。
- 合金鉄価格は、生産の減少や需要の増大により上昇。
- 脱炭素の潮流等を背景とした需給タイト化により、原油、天然ガス等の価格が上昇し、エネルギー単価も上昇。2022年度はさらなる上昇が見込まれる。

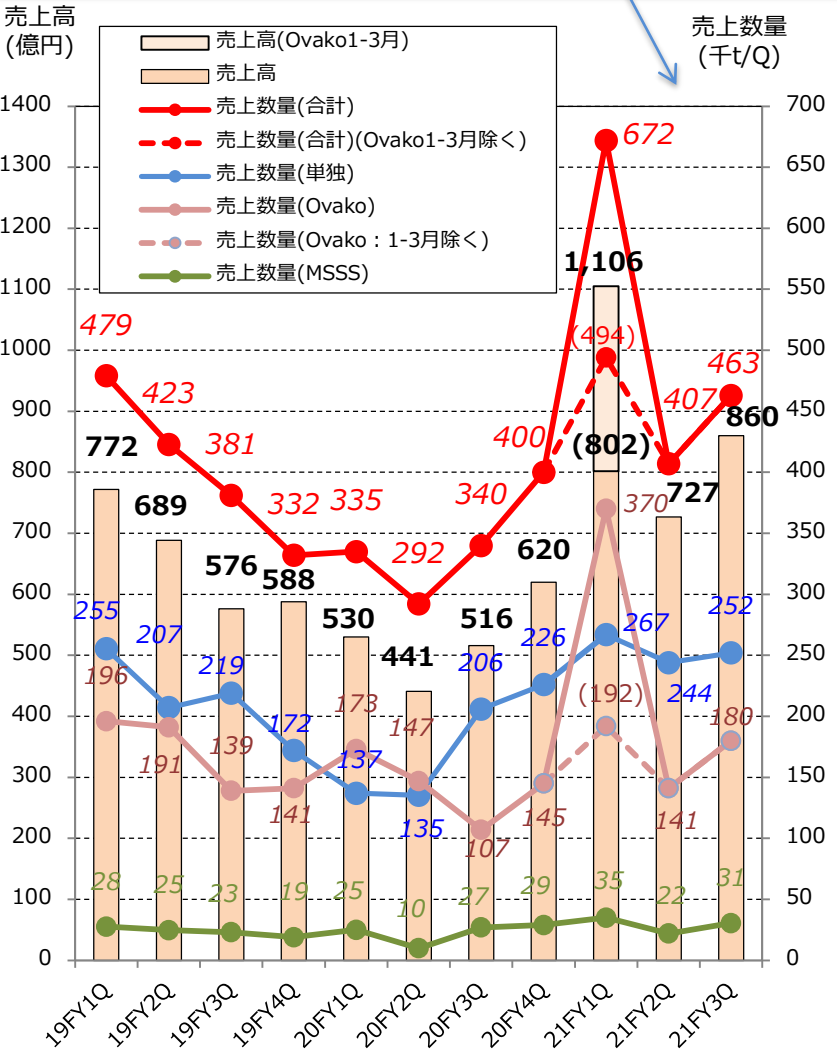


■ 原油、石炭、天然ガス価格の推移

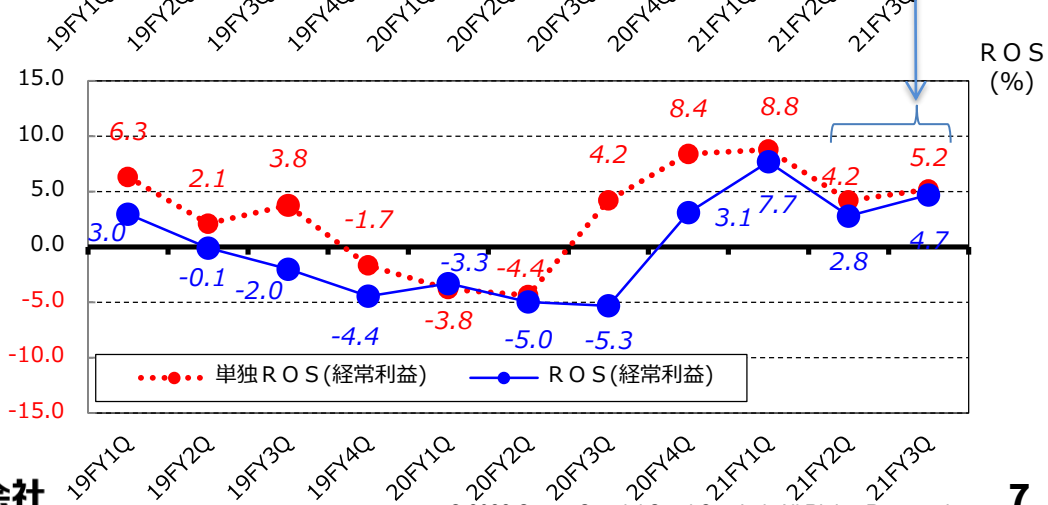
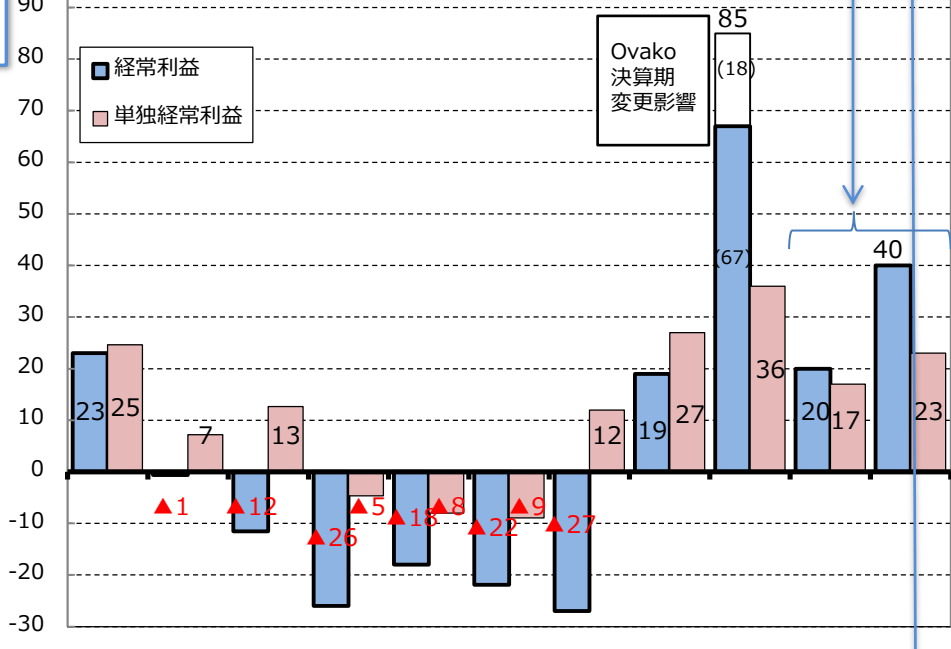


業績推移(四半期)

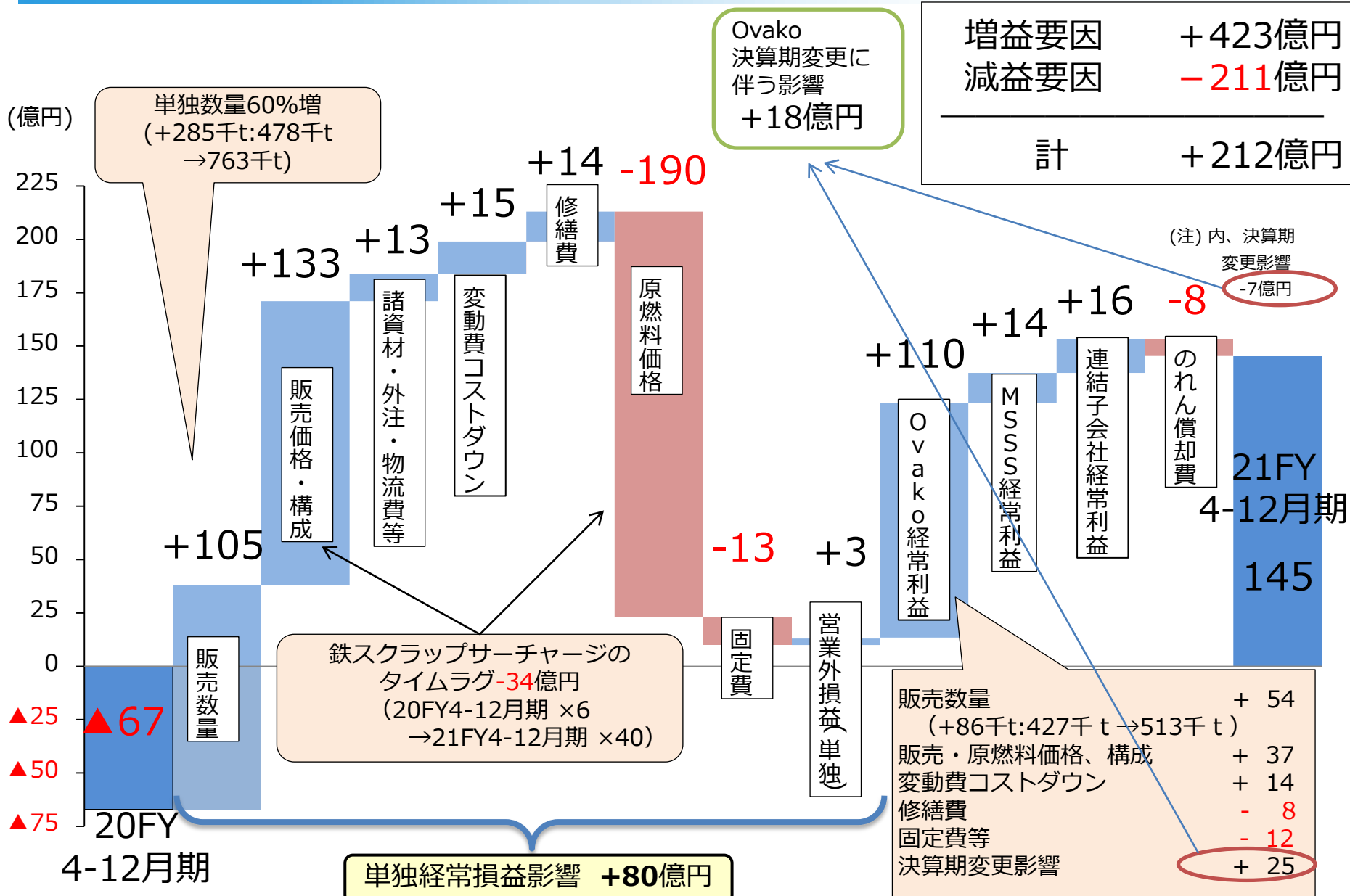
単独：21FY2Qは夏季修繕影響で数量が減少したが、3Qは回復。
 Ovako：21FY1Q(1-6月)は需要回復および決算期変更により数量が増加。2Qは夏季修繕により数量減少も3Qは回復。
 MSSS：21FY2Q(4-6月)はインドでの酸素供給停止により数量が減少したが、3Qは回復。



2Qは夏季修繕等により販売数量が減少し利益減。3Qは原燃料価格の上昇はあったものの、数量回復と価格改善等により利益増となった。



経常利益の変化要因 (2020FY 4-12月期→2021FY 4-12月期)

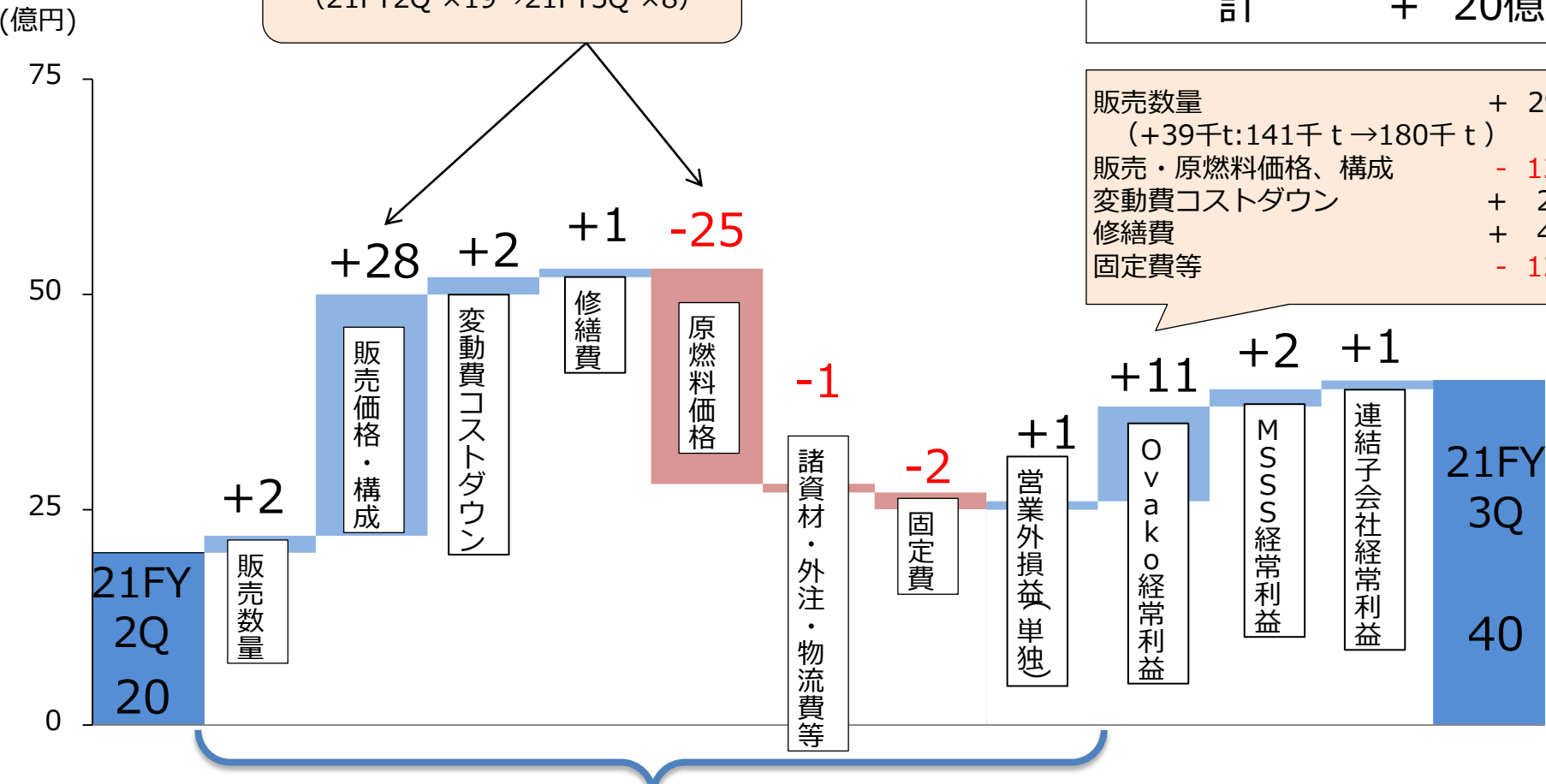


経常利益の変化要因 (2021FY2Q→2021FY3Q)

増益要因	+ 48億円
減益要因	- 28億円
計	+ 20億円

販売数量 (+39千t:141千t→180千t)	+ 29
販売・原燃料価格、構成	- 12
変動費コストダウン	+ 2
修繕費	+ 4
固定費等	- 12

鉄スクラップサーチャージの
タイムラグ +11億円
(21FY2Q ×19→21FY3Q ×8)



単独経常損益影響 +6億円

セグメント別損益

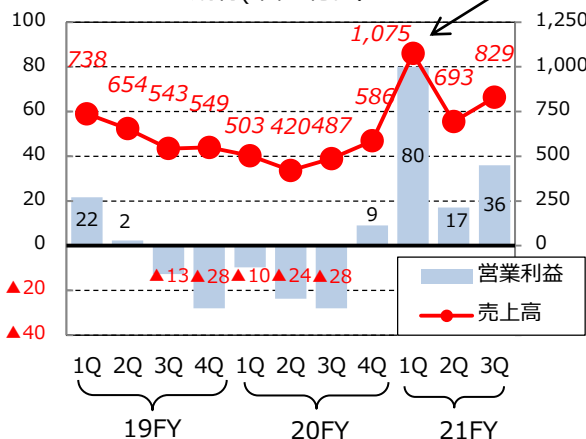
(単位：億円、%)

	2021/4-12月期(A)			2020/4-12月期(B)			対前年同期(A)-(B)		
	売上高	営業利益	売上高 営業利益率	売上高	営業利益	売上高 営業利益率	売上高	営業利益	売上高 営業利益率
鋼材	2,596	134	5.2	1,411	▲61	-4.4	+1,185	+195	+9.6
粉末	33	6	18.7	25	1	5.5	+9	+5	+13.2
素形材	134	4	2.6	95	▲5	-5.7	+39	+9	+8.3
小計	2,763	144	5.2	1,530	▲66	-4.3	+1,233	+209	+9.5
その他	7	0	0.4	11	0	2.9	-3	-0	-2.5
調整額	▲77	1	—	▲53	0	—	-24	+0	—
連結計	2,693	144	5.4	1,487	▲65	-4.4	+1,206	+209	+9.8

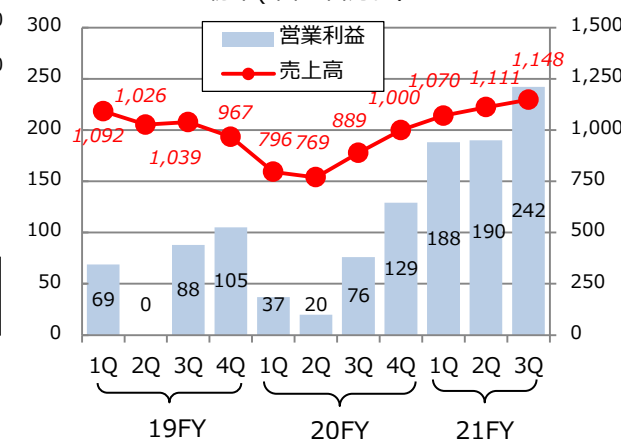
事業別損益推移

鋼材セグメントには
Ovako決算期変更影響を含む

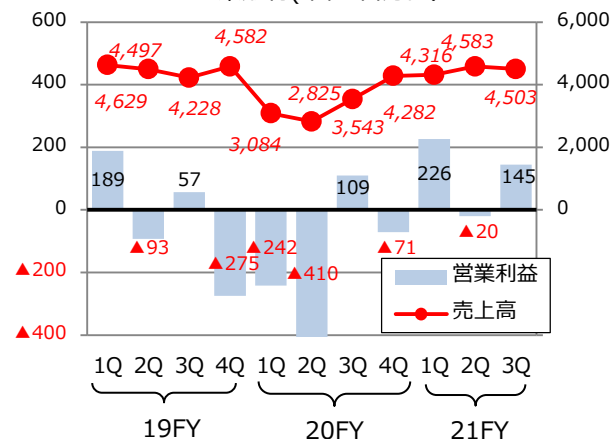
鋼材(単位:億円)



粉末(単位:百万円)



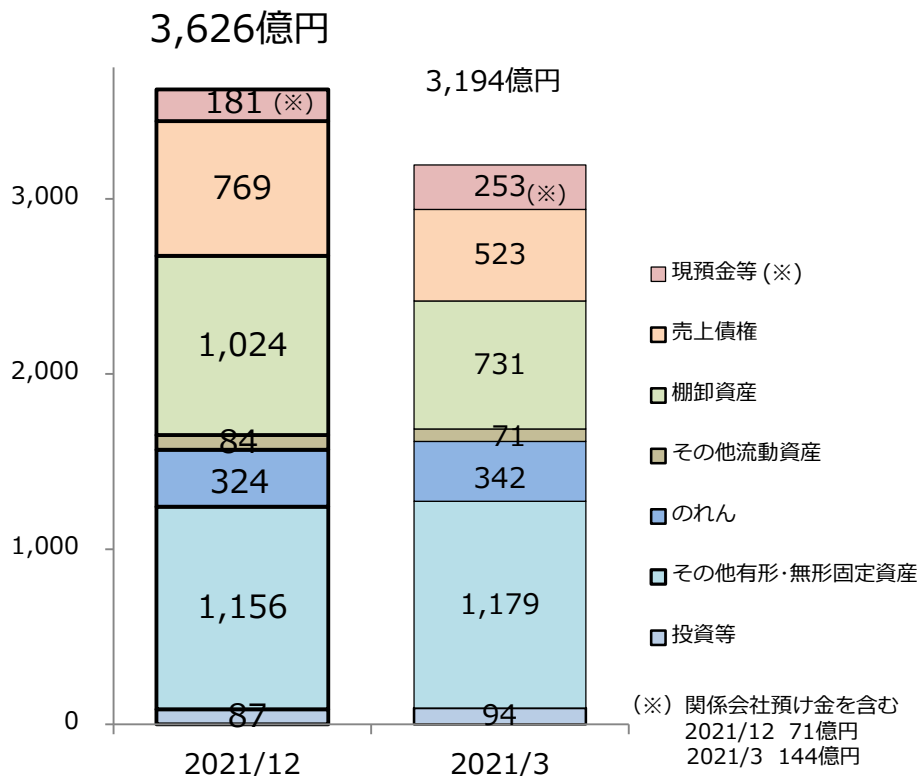
素形材(単位:百万円)



貸借対照表

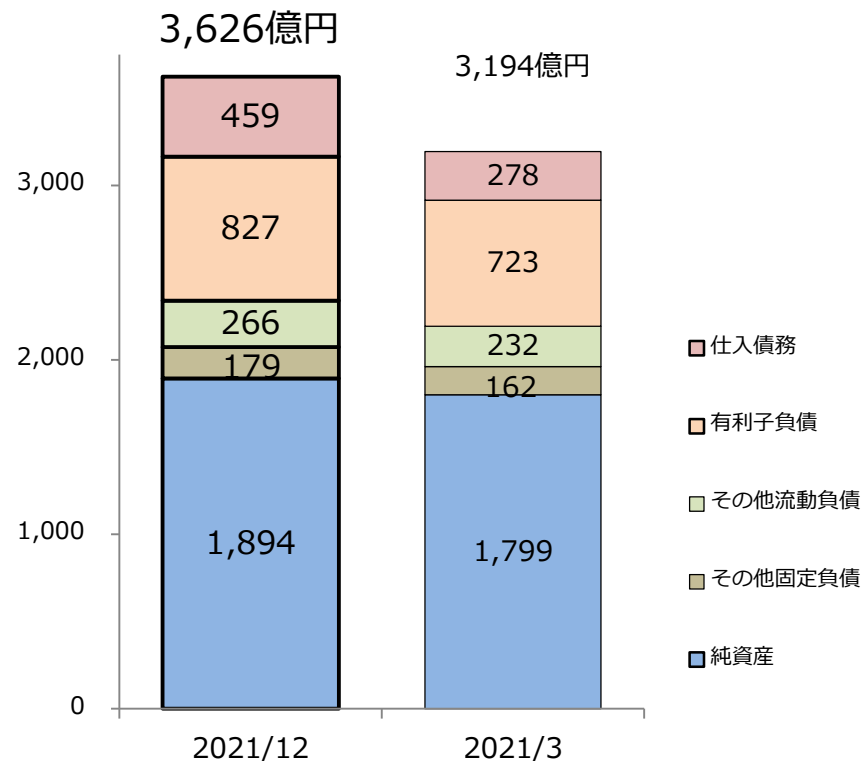
(億円)

資産



(億円)

負債・純資産



資産の主な増減 +433億円 (+14%)

現預金等	- 72億円	: 運転資金増加に伴う現預金等減少
売上債権	+246億円	: 売上数量増加等に伴う売上債権増加
棚卸資産	+293億円	: 売上増加、原燃料価格上昇に伴う在庫増加
のれん	- 17億円	: 償却 -27億円、為替影響 +10億円

負債・純資産の主な増減 +433億円 (+14%)

仕入債務	+181億円	: 原燃料価格上昇、売上増加に伴う仕入増
有利子負債	+105億円	: 運転資金増加に伴う有利子負債増加
純資産	+ 95億円	: 利益剰余金 +77億円、 その他の包括利益累計額 +16億円

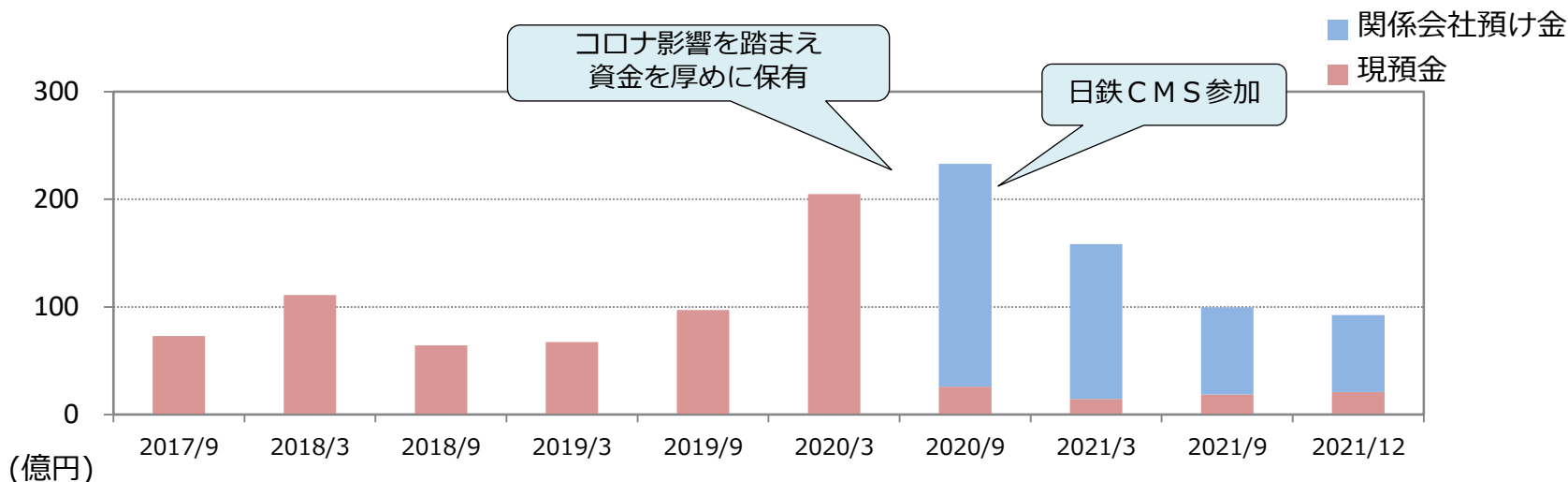
(参考)主要各社の総資産額(2021/12末:連結消去前)
当社 2,703億円 Ovako 1,059億円 MSSS 127億円

自己資本比率
2021/12末 51.8% 2021/3末 55.9%

(参考) 関係会社預け金について

- 2020年6月より、日本製鉄の連結キャッシュマネジメントシステムに参加。
- 当社の日々の残高を日本製鉄に預けるとともに、当社として資金所要があればいつでも引き出し可能。
- 万が一当社に資金ショートが発生した場合には、自動的に緊急融資がされる仕組み（資金のセーフティネットとして機能）。
- 従来の現預金の保有では得られなかった利息を受領できる。
- 会計処理上は、預け金という形になっているが、必要に応じて当社の運転資金となるものであるため、従来の現預金という性質には変わらない。

関係会社預け金を含む現預金等の推移（単独）



2. 業績予想等

2021FY通期業績予想(2022/1/27公表)

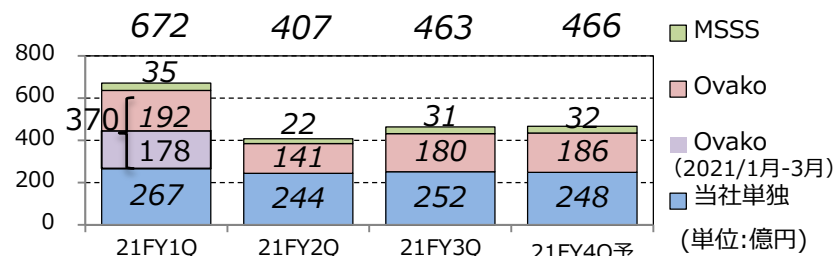
・連結経常利益160億円(前回予想比+20億円)

当社：ベース値上げを含むマージン改善に継続して取り組む

Ovako：販売数量の増加、ベース値上げを含むマージン改善に継続して取り組む

・適正マージンの確保、海外事業の収益力の強化に努め、事業基盤の強化を図る

(参考)2021FY売上数量見通し(千t/Q)



	今回予想(22/1/27)				前回予想(21/10/29)		増減		
	上期実績	下期		通期	下期	通期	前回予想 →今回予想	3Q→ 4Q予想	
		3Q実績	4Q予想						
売上高	1,833	860	907	1,767	3,600	1,667	3,500	+100	+46
営業利益	104	40	15	55	159	37	141	+18	-25
経常利益	105	40	15	55	160	35	140	+20	-25
内、当社単独	52	23	8	31	83	16	68	+15	-15
内、Ovako(注1)	1-3月 25 4-9月 43 } 68	18	14	32	100	24	93	+8	-4
内、MSSS(注2)	2	2	1	3	4	3	4	-	-1
内、のれん償却費(注1)	1-3月 ▲7 4-9月 ▲13 } ▲20	▲7	▲7	▲14	▲34	▲14	▲34	-	-0
税後利益(注3)	73	29	6	35	108	18	91	+17	-22
のれん償却費を除く税後利益	93	35	14	49	142	32	125	+17	-22
売上数量(千t)	1,079	463	466	928	2,007	930	2,009	-2	+3
内、当社単独	511	252	248	499	1,010	510	1,021	-11	-5
内、Ovako	511	180	186	366	877	351	862	+15	+6
内、MSSS	57	31	32	62	119	69	126	-6	+1

(注1) Ovako損益およびのれん償却費：

決算期を従来の12月から3月へ変更したため、2021FY予想は2021年1月～2022年3月の15カ月の数値
(2021FY上期は1月～9月の9ヵ月、2021FY下期予想は10月～2022年3月の6ヵ月の数値)

(注2) MSSS損益：1月～12月の数値

(注3) 親会社株主に帰属する当期純利益

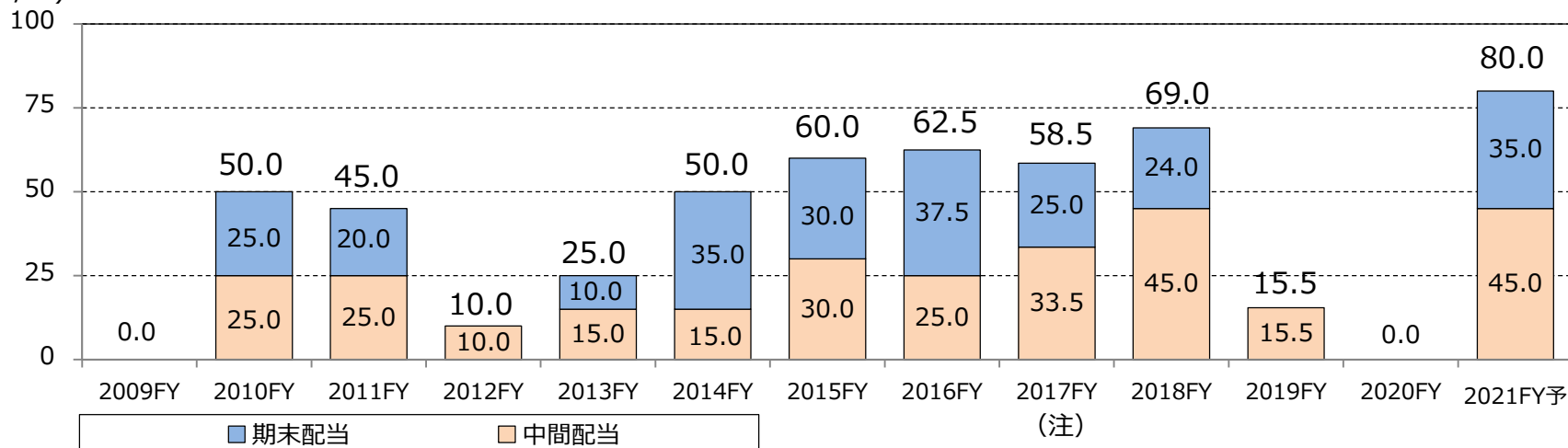
【予想の主要前提(2022年1月以降)】

・鉄スクラップ(購入) 56.0千円/t(姫路地区H2市況)
・原油(ドバイ) 90\$/BL ・為替 115円/\$、130円/€

2021FY配当予想(2022/1/27修正)

			中間 (実績)	今回予想 (A) 22/1/27		前回予想 (B) 21/10/29		増減 (A) - (B)	
				期末	通期	期末	通期	期末	通期
1株当たり純利益	A	円/株	133.8	-	198.2	-	167.0	-	+31.2
のれん償却費を除く 1株当たり純利益	B	円/株	170.8	-	260.6	-	229.4	-	+31.2
1株当たり配当金	C	円/株	45.0	35.0	80.0	15.0	60.0	+20.0	+20.0
配当性向	C/B	%	26.3	-	30.7	-	26.2	-	+4.5
	C/A	%	33.6	-	40.4	-	35.9	-	+4.4

(円/株)

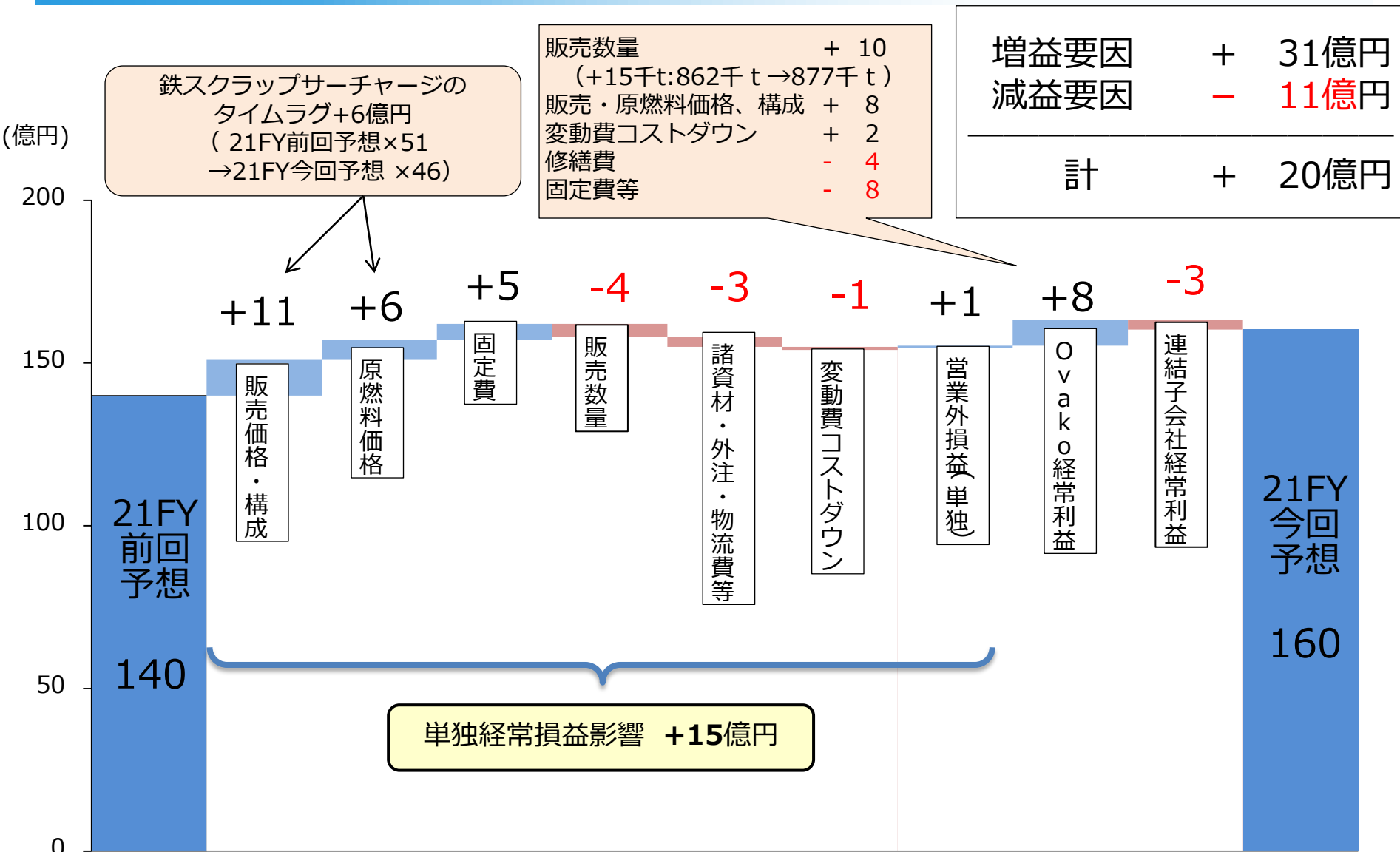


(注) 2017年10月1日に株式併合(5株を1株)を実施。当該株式併合を踏まえて換算。

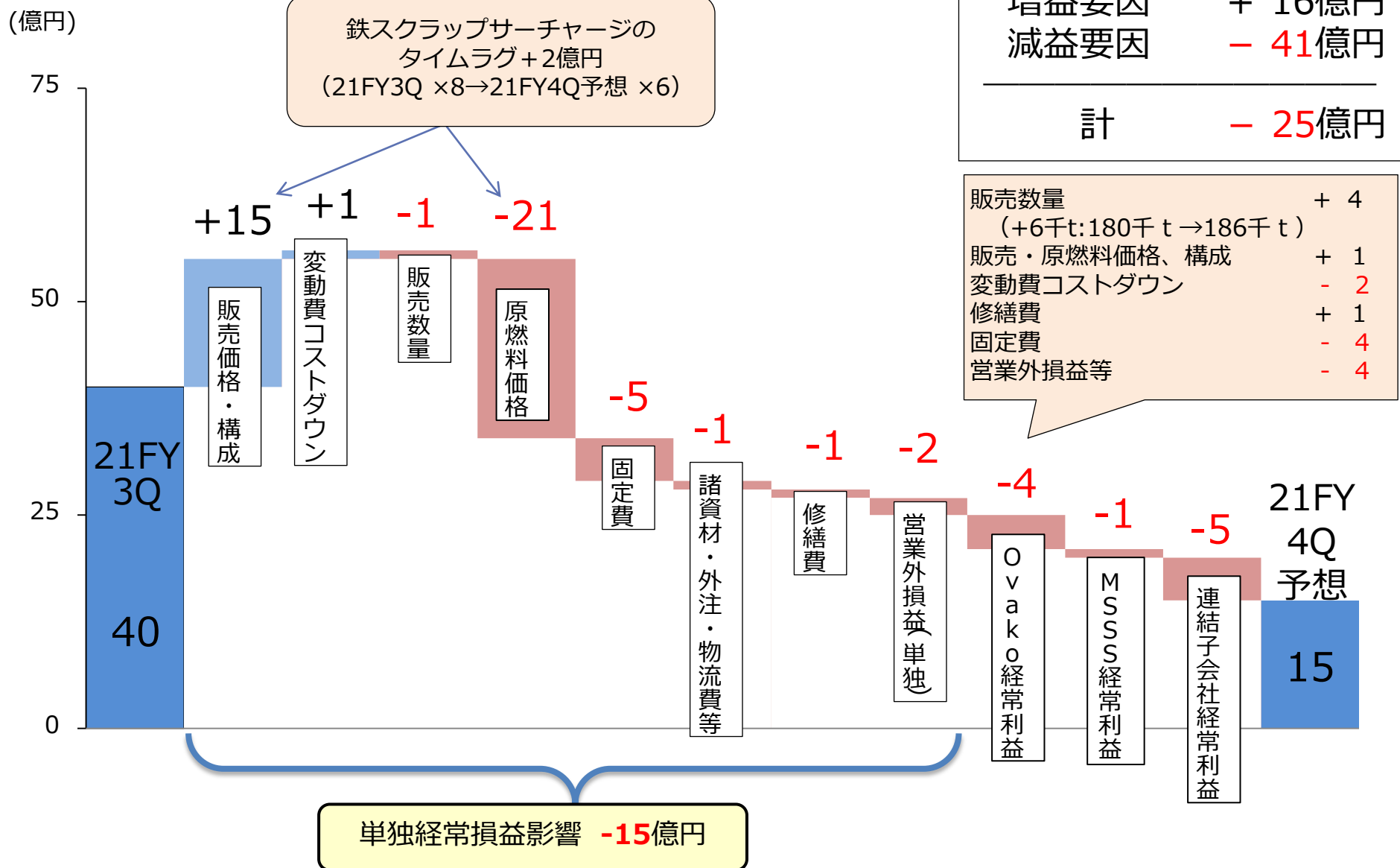
<配当方針>

のれん償却費を除く1株当たり当期純利益に配当性向 30%程度を乗じた金額を配当額とする

経常利益の変化要因 (2021FY前回予想→2021FY今回予想)

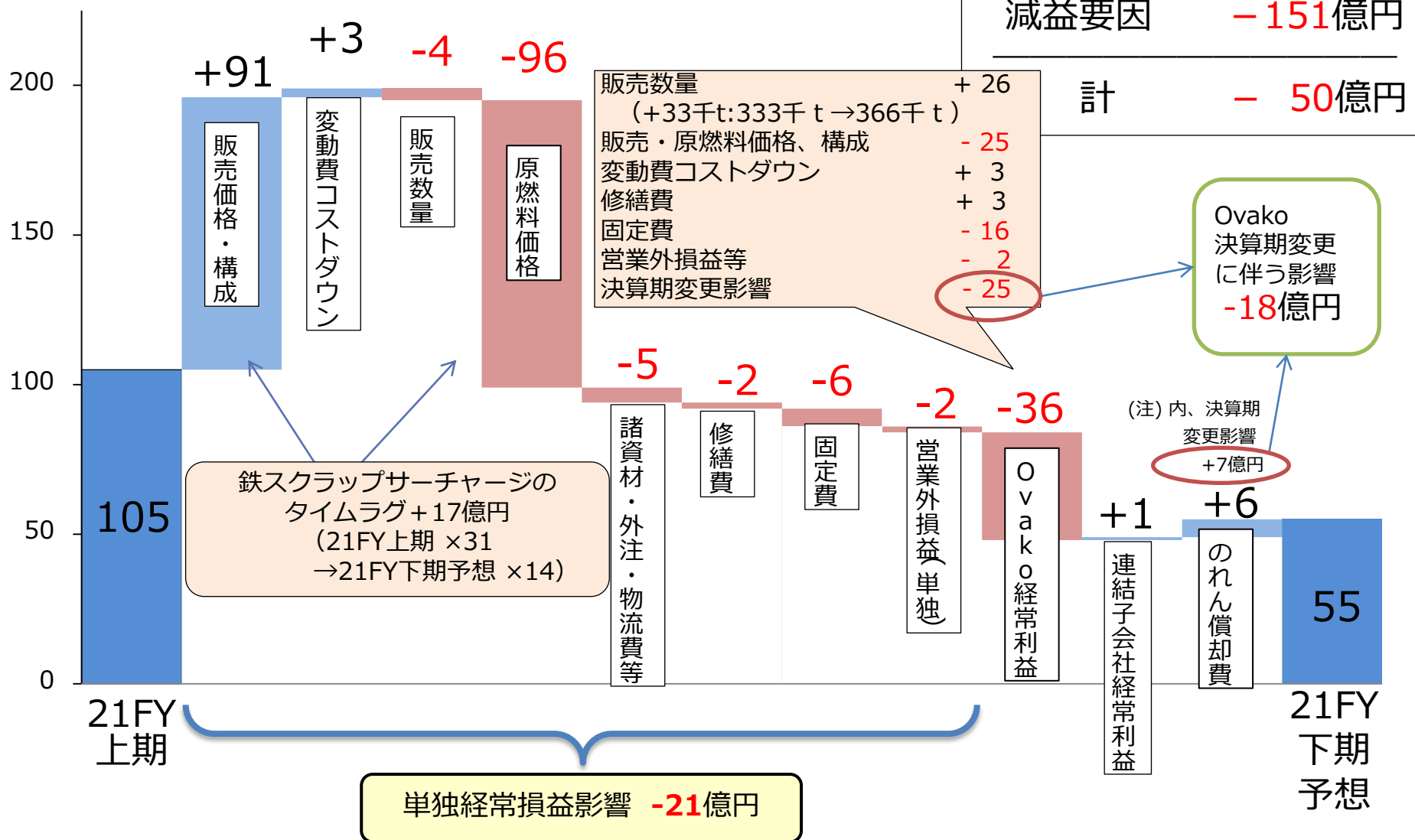


経常利益の変化要因 (2021FY3Q→2021FY4Q予想)



経常利益の変化要因 (2021FY上期→2021FY下期今回予想)

(億円)

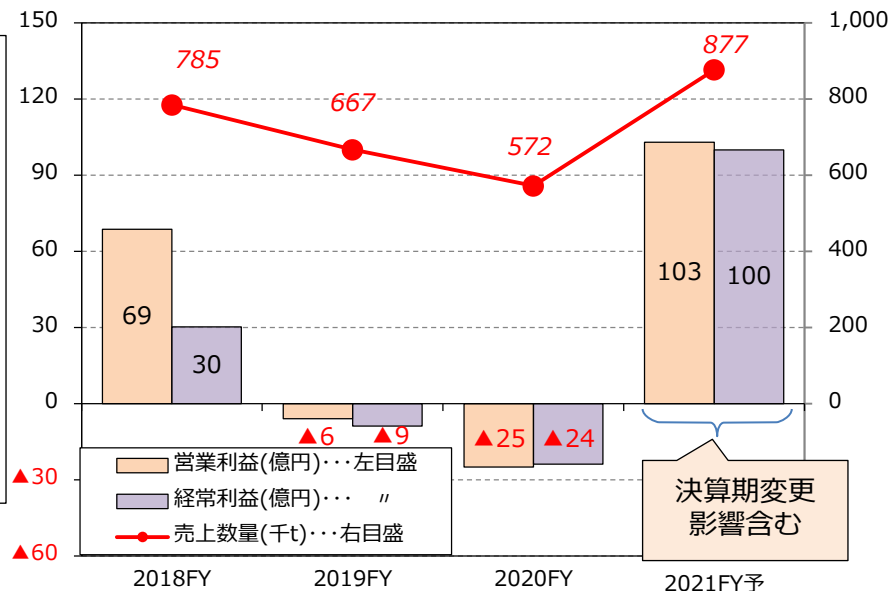


2021年度の見通し

・通期：経常利益100億円（前回予想比+8億円）

- ・需要回復による販売数量増加、マージン改善、収益改善効果等により、前回通期予想比増益見込み。
- ・原燃料価格の上昇はあるものの、引き続き、変動費コストダウンおよび固定費の抑制に取り組むとともに、需要を捕捉し計画の達成を目指す。
- ・2021年度から決算期を12月から3月へ変更（P36ご参照）

営業利益、経常利益、売上数量推移



収益力の強化、サポート体制

・収益力の強化

- ▶ミル間での能力の融通を含めた最適シフト体制を構築し、高生産水準下においても人員を抑制
- ▶変動費の削減、固定費のコントロールを徹底し、持続的な損益分岐点の引き下げを図る
- ▶サーチャージでオフセット出来ない原燃料価格の上昇を2022年1月以降の製品価格に反映し、マージン改善を図る

・3社連携によるシナジー効果の発揮

- ① 拡販活動の推進 ② 操業支援によるコスト削減 ③ 調達コストの削減

MSSS業績

Mahindra Sanyo Special Steel Pvt. Ltd.
 本社インドムンバイ。特殊鋼一貫製造・販売子会社。2018年6月子会社化。

2021年度の見通し

- ・2021年4月、コロナ感染再拡大に伴い酸素供給が停止、生産に影響
- ・2021年6月から酸素供給が再開され、7月から通常操業
- ・一時帰国していた日本人派遣者は、現地の感染状況が落ち着いてきたため2021年8月下旬に帰任

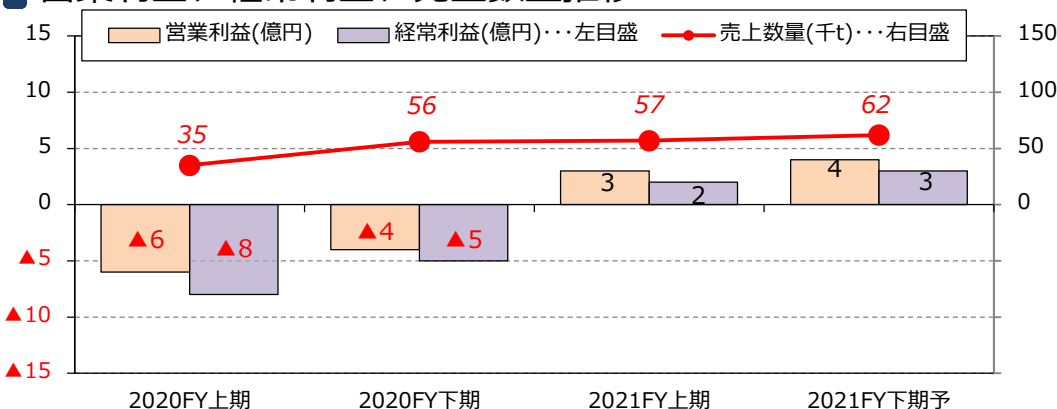
・通期：経常利益4億円（前回予想比±0億円）

- ・2Q(4-6月)は酸素供給停止影響で販売数量が減少したが、販売数量増、販売価格・構成改善等により3Q累計(1-9月)は黒字を確保、通期(1-12月)も黒字の見込み。
- ・半導体不足による自動車減産、原燃料価格の上昇の影響はあるものの、販売価格・構成の改善を図る。
- ・コスト競争力・営業力の強化により、拡大・高度化するインド市場でのポジションを高め、さらなる黒字化を目指す。

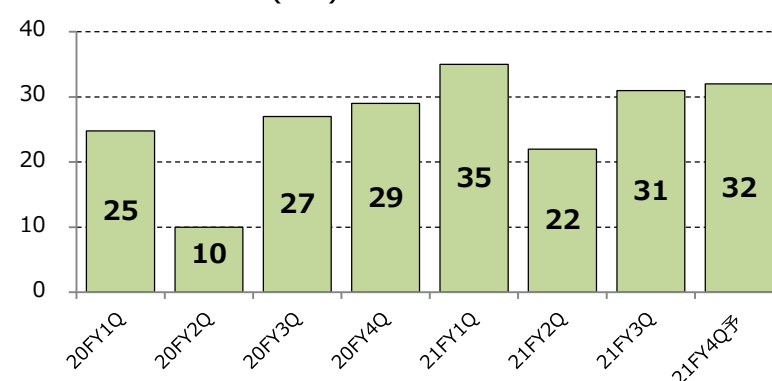
収益確保に向けた取り組み

- ・営業基盤・営業体制の強化
 高潔度技術を生かした
 営業戦略策定、拡販、
 販売構成の高度化、
 販売価格の改善
- ・変動費の削減
 エネルギー原単位改善や
 安価原料の有効活用による
 操業コスト・調達コストの削減
- ・固定費の抑制

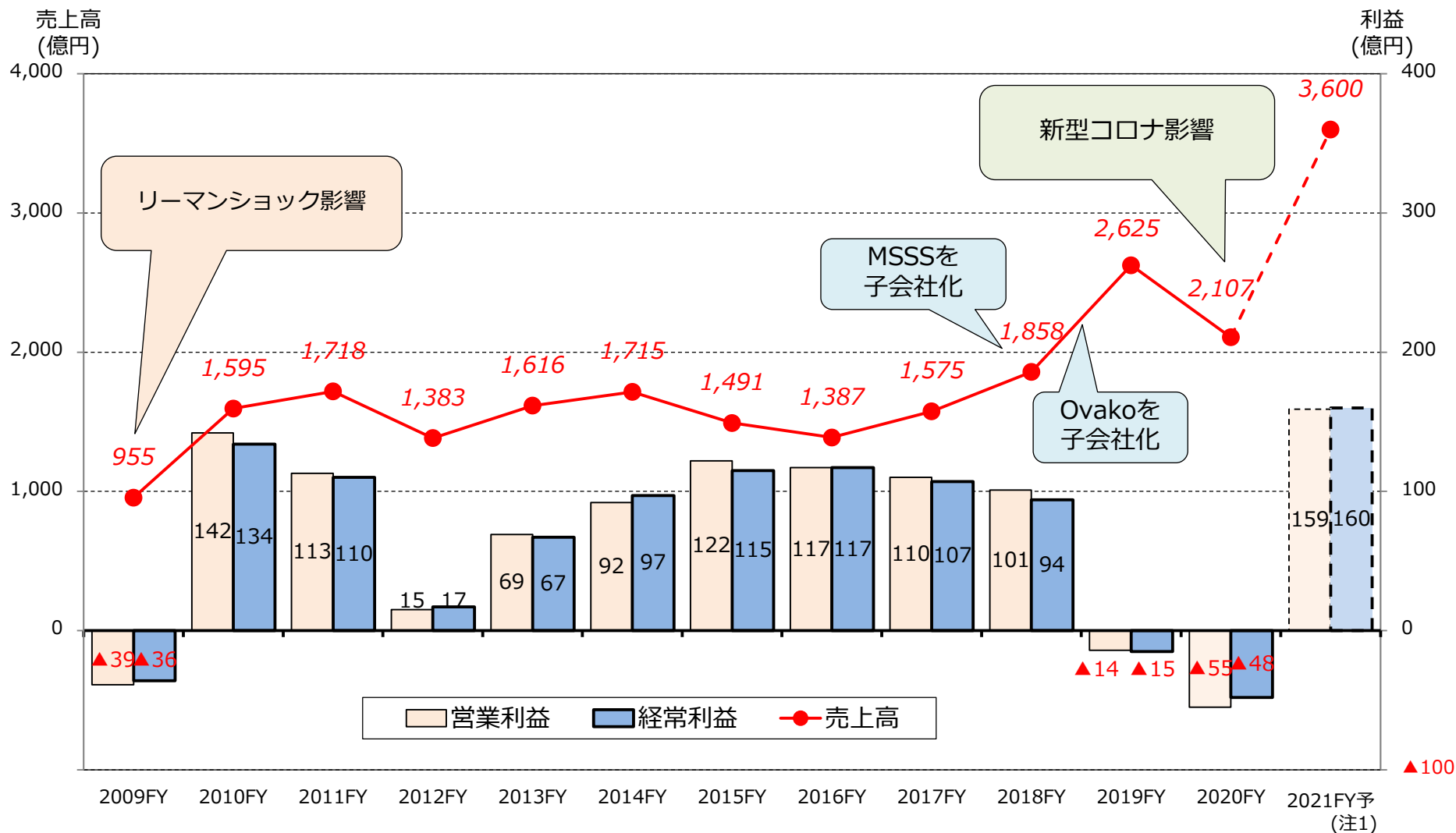
営業利益、経常利益、売上数量推移



MSSS売上数量(千t)

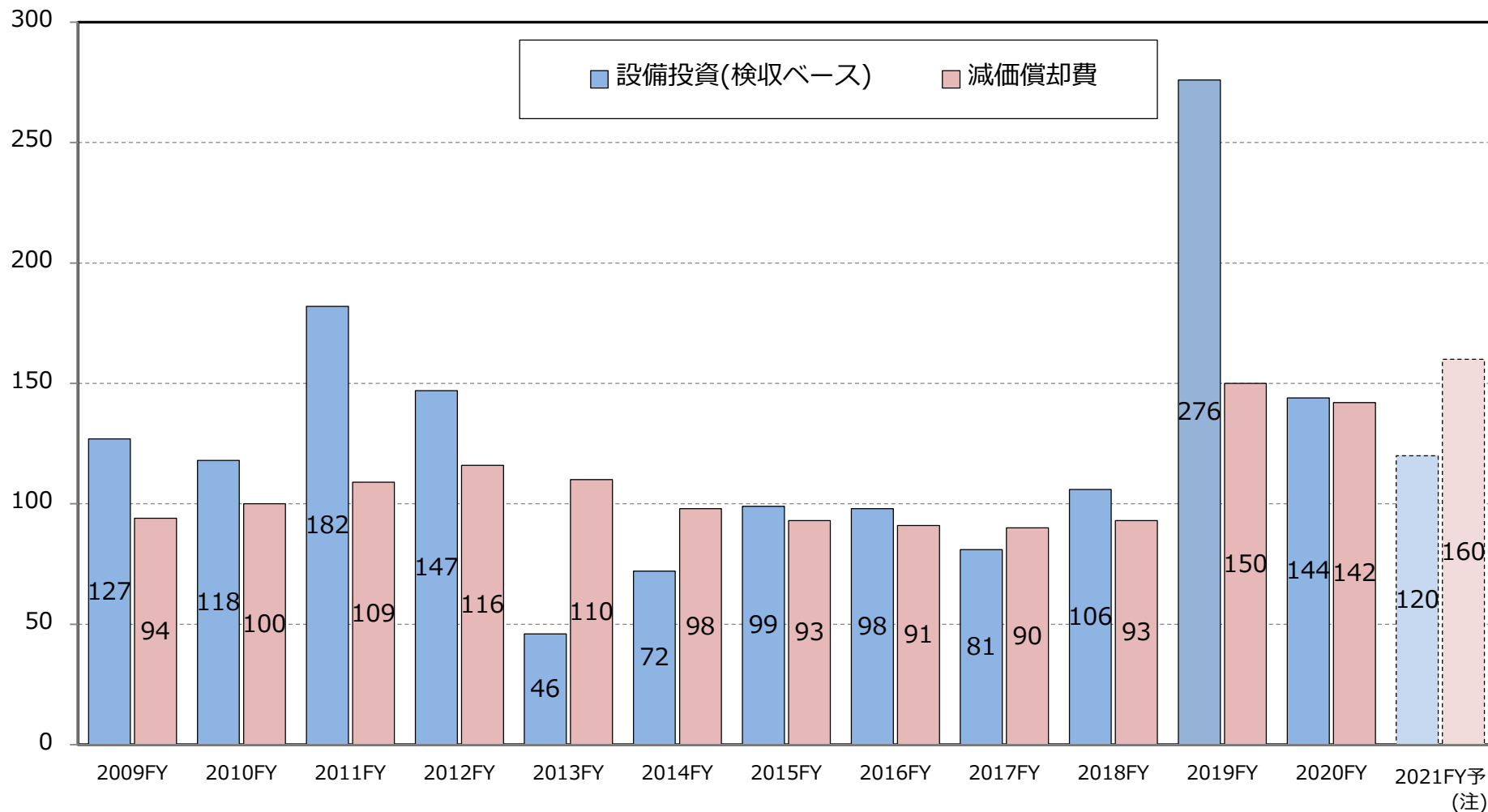


業績推移(年度)



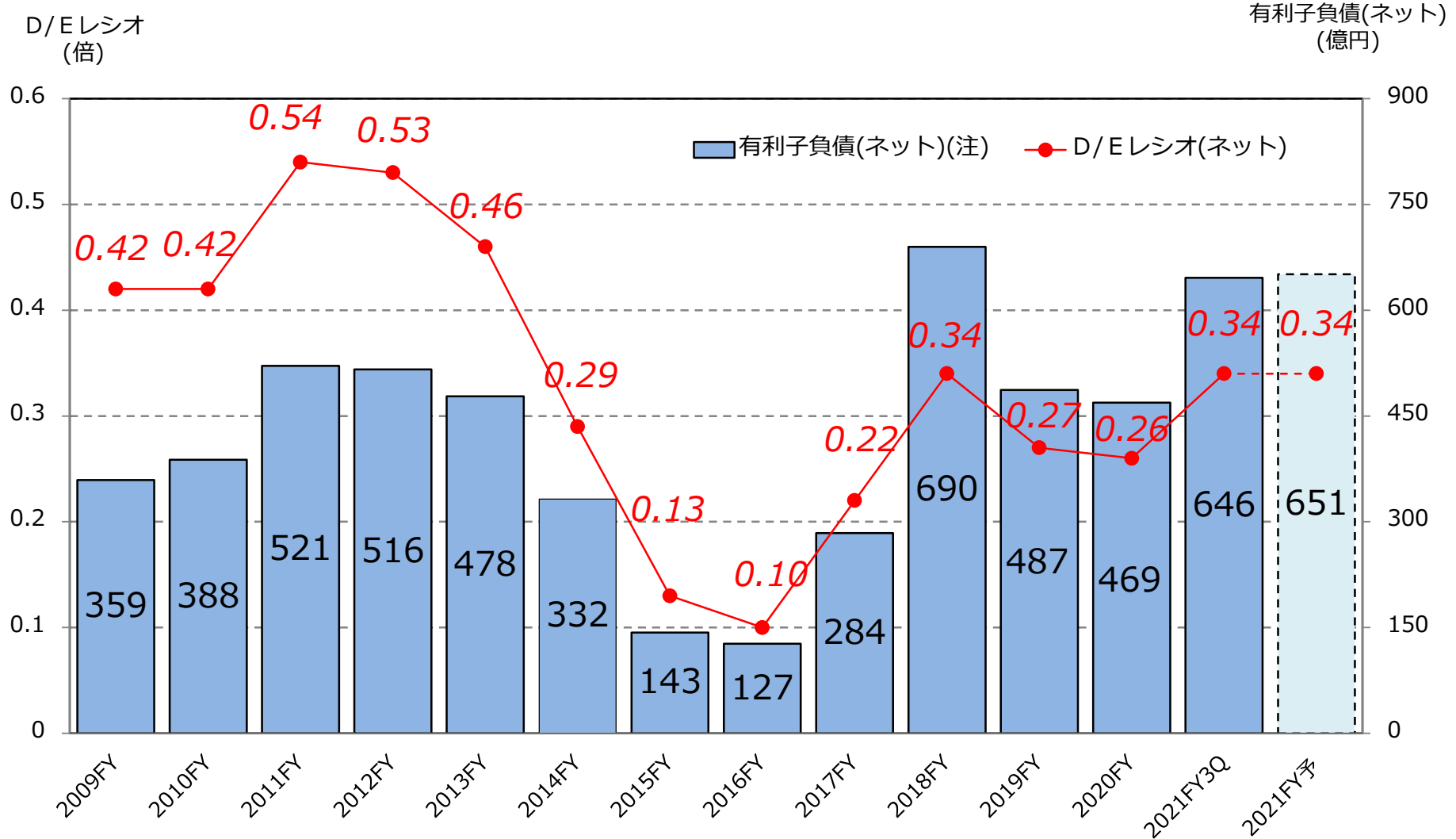
設備投資・減価償却費の推移

(億円)



(注)2021FY予想の設備投資(検収ベース)120億円の内、当社単独51億円、Ovako 59億円、MSSS 6億円。
2021FY予想の減価償却費160億円の内、当社単独 81億円、Ovako 71億円、MSSS 0億円。

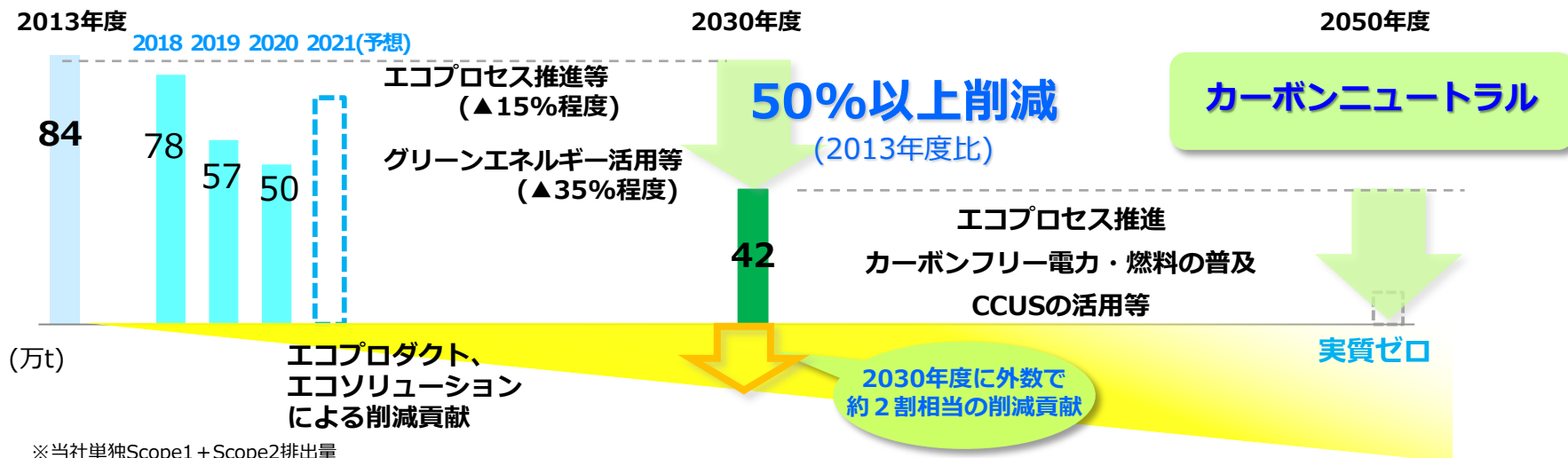
D/Eの推移



(注)有利子負債(ネット)は、有利子負債残高から現預金および関係会社預け金残高を控除したものの

3. 2050年カーボンニュートラル(CN) 実現に向けた取り組み

2050年に向けた当社のロードマップ



※当社単独Scope1+Scope2排出量

※各年度の排出量は、契約電力会社の電力排出係数（温室効果ガス排出量算定用）より算出

エコプロセス



製造現場を中心とした全社の省エネ対策やエネルギー効率を高める製造技術開発を推進

- リジエネバーナーを採用した省エネ加熱炉

グリーンエネルギー活用



カーボンフリー電力や脱化石燃料、自然エネルギーの活用

※Ovako事例参照

エコプロダクト



製品を使用する段階でCO₂排出削減に貢献する商品や、需要家のエコプロセスに貢献する商品の開発・供給を推進

- 長寿命風力発電用軸受鋼の開発

エコソリューション



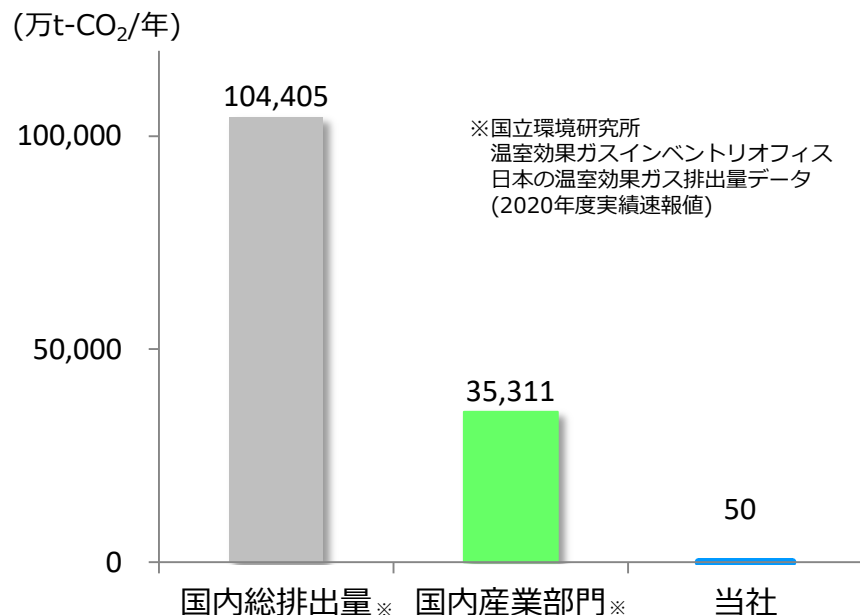
エネルギー原単位削減に寄与する省エネや生産性向上技術をOvako、MSSS等の海外グループ会社に展開

- 海外グループ会社への技術展開

当社の状況とカーボンニュートラルに向けた考え方

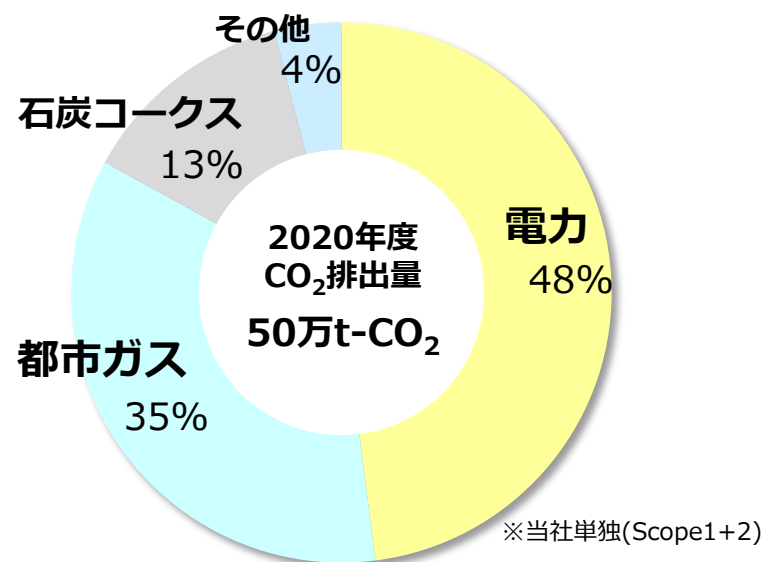
CO₂排出量における当社の位置づけ

(2020年度CO₂排出量)



■再生資源である鉄スクラップを主原料として特殊鋼を製造する当社のCO₂排出量は、国内産業部門の0.2%程度

当社のCO₂排出量内訳



■当社のCO₂排出の80%以上が電力と都市ガス

製造工程における省エネとグリーンエネルギーの活用、およびエコプロダクト・エコソリューションによる貢献で、自社の製造工程だけでなく、社会のあらゆる段階でのCO₂排出削減を目指す

エコプロダクトによるCO₂排出量削減への貢献

当社は、お客様での部品製造や最終製品としての使用段階におけるCO₂排出削減に貢献するエコプロダクトの開発に注力

長寿命軸受鋼

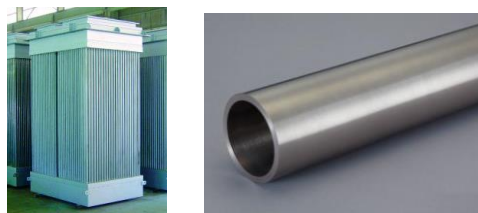


耐久性・信頼性向上による
部品の小型・軽量化



長寿命化による
故障率低減・メンテフリー化

耐熱ステンレス鋼管



高強度化による
熱回収効率向上



高耐食性化による
ごみ発電高効率化

高硬度高靱性鋼



新成分+新熱処理技術による
部品硬化熱処理負荷の軽減



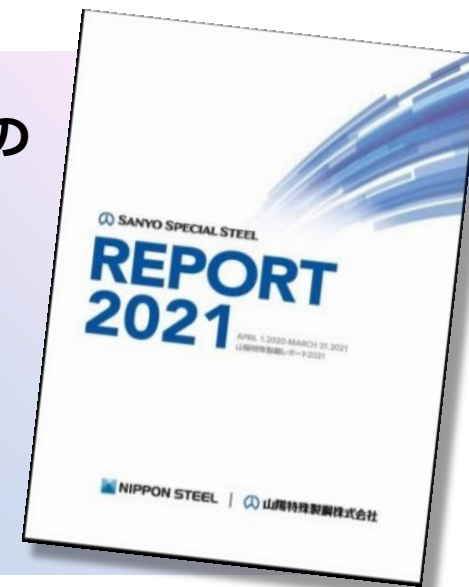
- 当社材料技術を活用したエコプロダクトによる社会のあらゆる段階でのCO₂排出削減貢献を目指す
- 今後も長寿命化等、材料特性をさらに強化したエコプロダクトの実装と一層の普及を図ることで、カーボンニュートラル社会の早期実現に貢献していく

統合報告書を発行（2021年11月11日）

当社は、パリ協定の長期目標達成に取り組む国際社会の状況等を踏まえ、TCFD提言に賛同しています。

統合報告書「山陽特殊製鋼レポート 2021」では、TCFD提言に沿った気候関連情報の開示を行いました。

TCFD：金融安定理事会（FSB）が設置した気候関連財務情報開示タスクフォース
（Task Force on Climate-related Financial Disclosures）

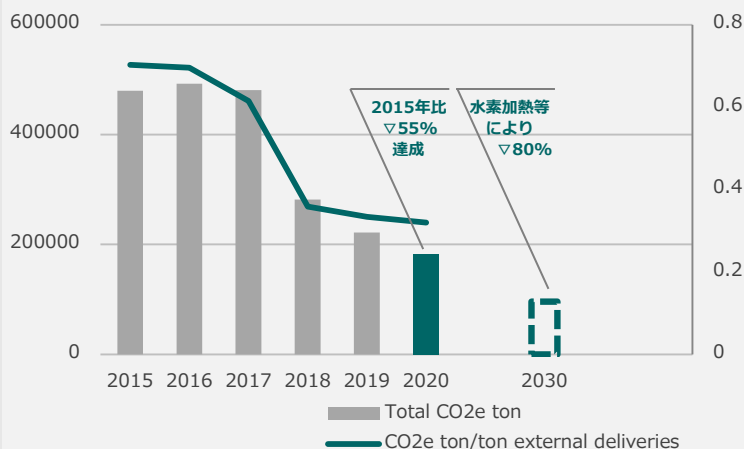


- TCFDシナリオ分析では、主な気候関連事象と想定される影響、当社の対応・戦略について2℃以下シナリオ、4℃シナリオを掲載。想定されるリスク・機会について、当社の対応・戦略を想定。
- 当社の製造段階で発生するエネルギー起源CO₂排出量（Scope1, Scope2）および「環境省グリーン・バリューチェーンプラットフォーム」等を活用して算出したサプライチェーンにおけるCO₂排出量（Scope3）を開示。

欧州子会社Ovakoの取り組み

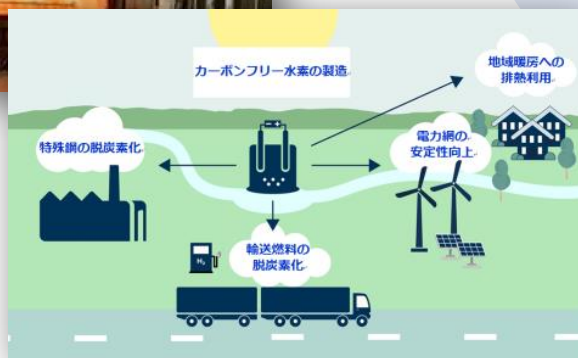
Green house gas emissions from operations

CO₂e/ton Scope 1 and 2 according to GHS Protocoll and ISO14064



- 2030
- Reduce CO₂ from operations by 80% from 2015 level**
 - Continue to evolve Our world-leading CO₂ footprint**
 - Enhanced steel recyclability** (Driven by Ovako initiative)
 - Increased number of customer** (End-products that use our steel for greater CO₂ savings)

Ovako SUSTAINABILITY REPORT 2020をもとに作成



特殊鋼製造プロセスで排出するCO₂を
2015年比55%削減

世界初 水素を燃料に用いた鋼片加熱に成功

カーボンフリー水素プラントの建設に着手

2022年1月から
カーボンニュートラルに移行

自社の製造プロセスにおける
CO₂排出を実質ゼロにする、
カーボンニュートラル体制に移行

- ✓ カーボンオフセットプログラムを活用し、残るCO₂排出量(Scope1 + Scope2)を相殺
- ✓ 気候変動問題への取り組みや投資を促進するため、鋼材価格への気候サーチャージ制度を導入
- ✓ 自社製造プロセスでのCO₂排出削減も引き続き推進

2020年

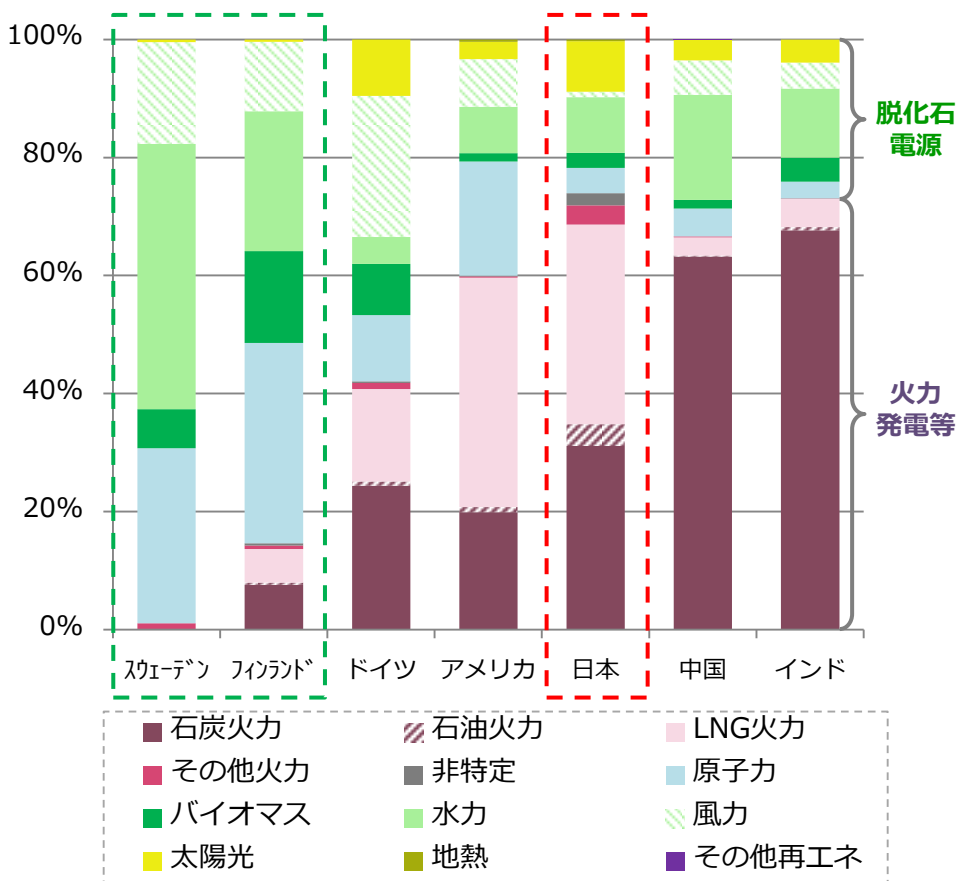
2020年
4月

2021年
6月

2022年
1月

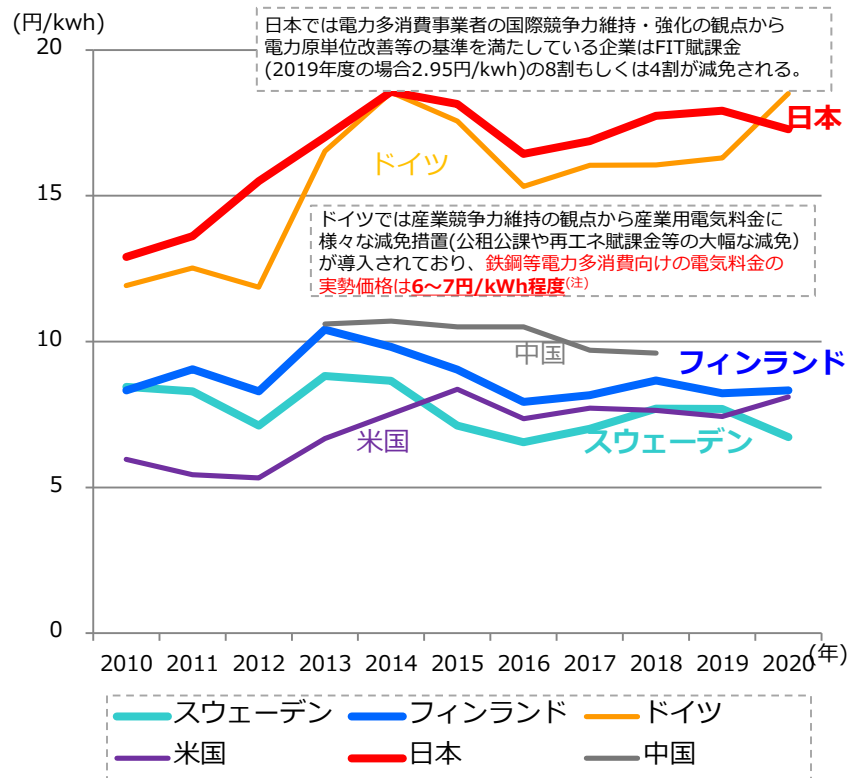
(参考) 各国の電源構成と産業用電力価格

■ 電源構成(2020年)



※ IEA(国際エネルギー機関)「Monthly Electricity Statistics」より当社作成

■ 産業用電力価格の推移



※ スウェーデン・フィンランド・ドイツ・米国・日本については英国ビジネス・エネルギー・産業戦略省「Industrial electricity prices in the IEA」より、中国については、(公財)自然エネルギー財団「中国の電力システム改革」より当社作成

(注) 国際環境経済研究所「海外のカーボンプライシングの実態」

Ovakoの生産拠点が立地するスウェーデン、フィンランドは脱化石電力(水力、風力、原子力)比率が圧倒的に高い

スウェーデン、フィンランドの産業用電力価格は日本の1/2~1/3程度

4. トピックス

(1) 監査等委員会設置会社への移行に関するお知らせ（2022年1月27日）

2022年6月開催予定の定時株主総会にて、関連する定款変更議案が承認されることを条件に、「監査役会設置会社」から「監査等委員会設置会社」に移行することを、取締役会にて決議

1. 目的

- ・経営の意思決定の迅速化を図る
- ・取締役会における経営の基本方針等の議論をより充実させる
- ・取締役会による業務執行への監督機能を強化

2. 時期

- ・本年6月開催予定の当社第110回定時株主総会での、関連する定款変更議案の承認を経て、監査等委員会設置会社に移行予定

3. その他

- ・定款変更の内容、移行後の役員人事等については、決定次第速やかに公表

株主や取引先をはじめとするステークホルダーの皆様からの負託と信頼に応え、当社グループの健全で持続的な成長と中長期的な企業価値の向上を図るために、コーポレート・ガバナンスの充実に継続的に取り組んでまいります。

トピックス

ESG

(2) 東京証券取引所の新市場区分において「プライム市場」を選択 (2021年11月30日)

- ・ 2021年11月30日開催の取締役会で「プライム市場」を選択、申請
- ・ 2022年4月4日、プライム市場に移行予定

プライム市場

2022/4/4 プライム市場へ

グローバルな投資家との建設的な対話を中心に据えた企業向けの市場

スタンダード市場

グロース市場

【見直し後の市場区分】

その他

(3) 「高機能金属展」に出展 (2021年12月8日～10日)

幕張メッセで開催された
「第8回高機能金属展」に出展

【当社展示製品例】

- ・ 3Dプリンター用銅合金粉末
- ・ Coフリーマルエージング鋼粉末
- ・ 電磁波吸収体用扁平粉末
- ・ 高機能ガスアトマイズ金属粉末 等



(4) 大阪大学、姫路市の小学校・工業高校にて講義を実施

～未来の鉄鋼技術を支える人材育成に貢献～

■ 大阪大学で開催された「経営幹部による大学特別講義」

（日本鉄鋼協会主催）にて講演 （2021年12月1日）

- ・ 応用理工学科材料科学コース3年生を中心とした約100人を対象。
- ・ 「拡大する日本の特殊鋼の技術先進性」について、当社の研究・開発部門を担当する取締役常務執行役員の柳本が講義を実施。



【大阪大学での特別講義】

■ 姫路市内の小学校にて出張授業 （2021年12月6日）

- ・ 特殊鋼に関するテーマだけでなく、SDGsやカーボンニュートラルについての授業を実施。



【小学校での出張授業】

■ 姫路市内の工業高校にて特殊鋼の講義を開催

（2021年12月16日）

- ・ 機械科の2年生およそ80人を対象。
- ・ 特殊鋼はどのように作られ、どこに使われるか、その魅力と将来について講義を実施。

5. 參考資料

Ovakoの決算期変更について


(1) 変更内容

2021年度より、Ovakoの決算期を12月から当社単独と同じ3月へ変更。
移行期となる2021年度は、2021年1月～2022年3月の15か月決算を実施。

(2) 当社連結決算への影響

当社連結決算上、Ovakoの2021年1～3月損益が、「**Ovakoの決算期変更影響**」となる。
連結経常利益への影響は、**+18億円**(Ovako経常利益 25億円、のれん償却費 -7億円)。

2020年度				2021年度				
2020年1-12月				2021年1月-2022年3月				
1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	
20/1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	21/1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	22/1-3月



決算期変更影響

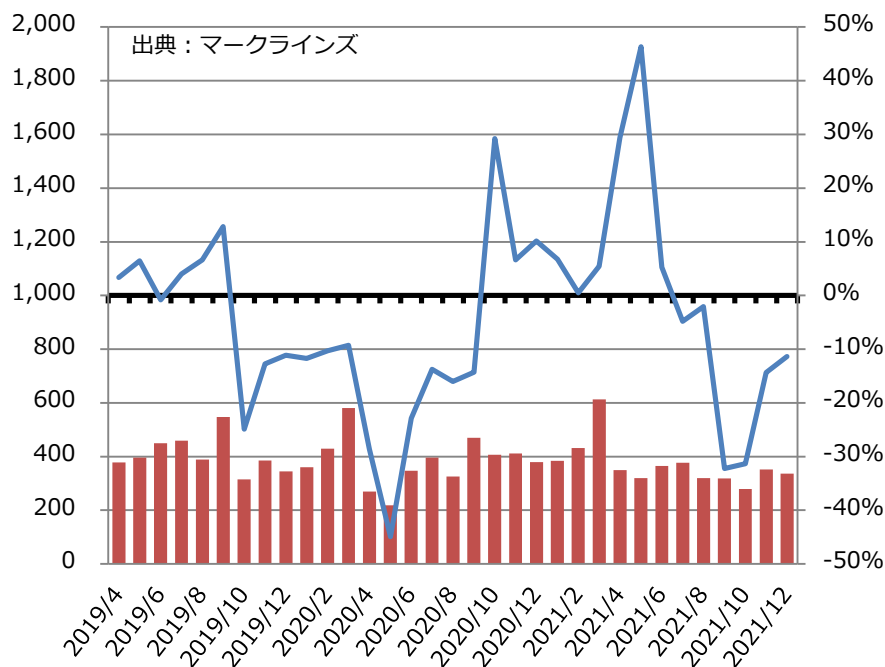
(3) 変更の理由

Ovakoは、他の海外子会社と同様、3か月遅れで連結決算に取り込んでいた。同社は当社単独の次に大規模な子会社(売上高は当社単独の約8割)であり、連結業績に占める割合が高い。同社の決算期を当社単独と統一することにより、適時・適切な業績開示とグループ経営管理を実施する。

自動車市場の動向

日本自動車販売台数 (前年同月比増減率)

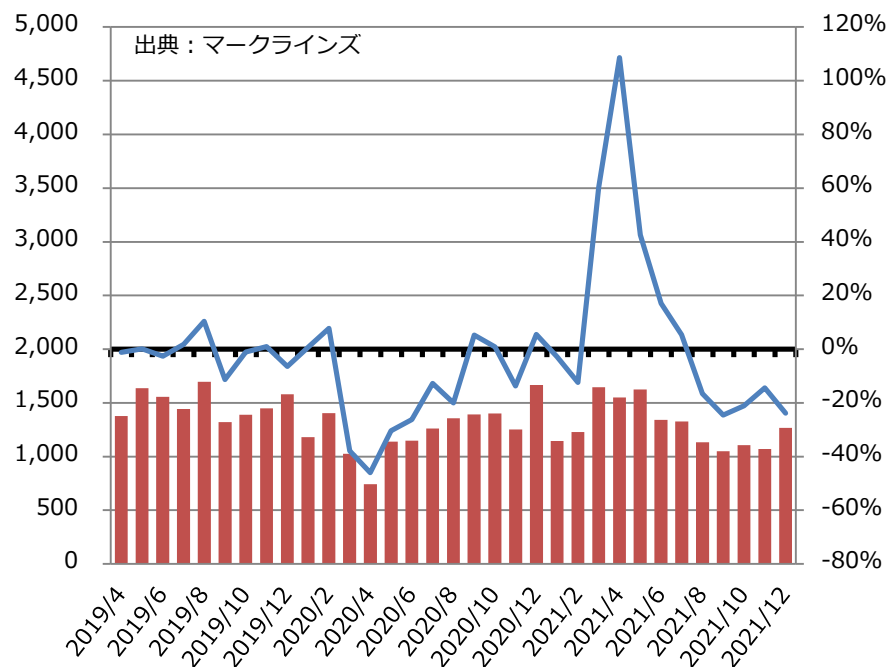
(台数：千台)



- ・ 2020/5を底に新型コロナウイルス影響による落込みから回復傾向
- ・ 2021/5 : 前年同月比 +46.3% (前年同期大幅減の反動)
- ・ 2021/12 : 前年同月比 -11.4%

米国自動車販売台数 (前年同月比増減率)

(台数：千台)



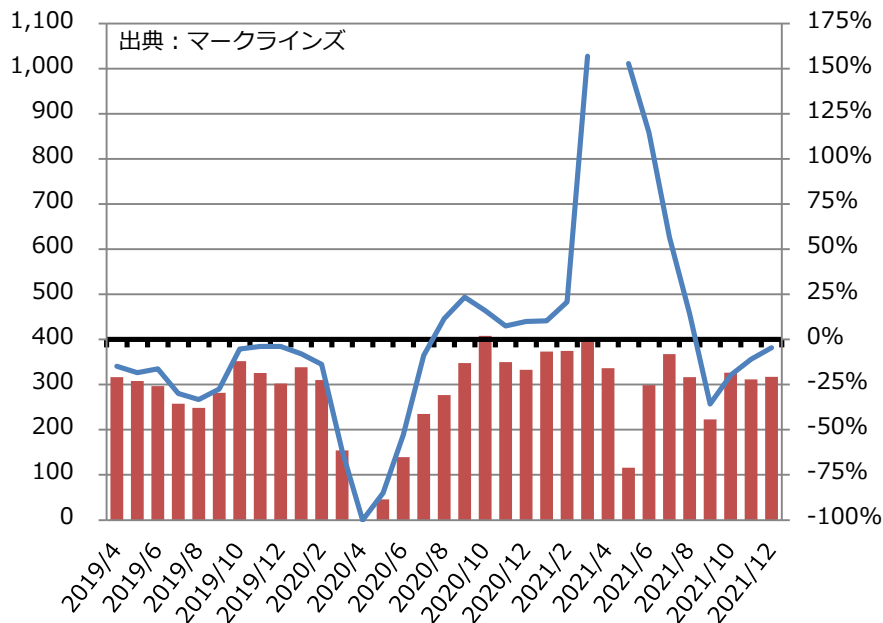
- ・ 2020/4を底に新型コロナウイルス影響による落込みから回復傾向
- ・ 2021/4 : 前年同月比 +108.6% (前年同期大幅減の反動)
- ・ 2021/12 : 前年同月比 -23.9%

自動車市場の動向

インド自動車販売台数

(前年同月比増減率)

(台数：千台)

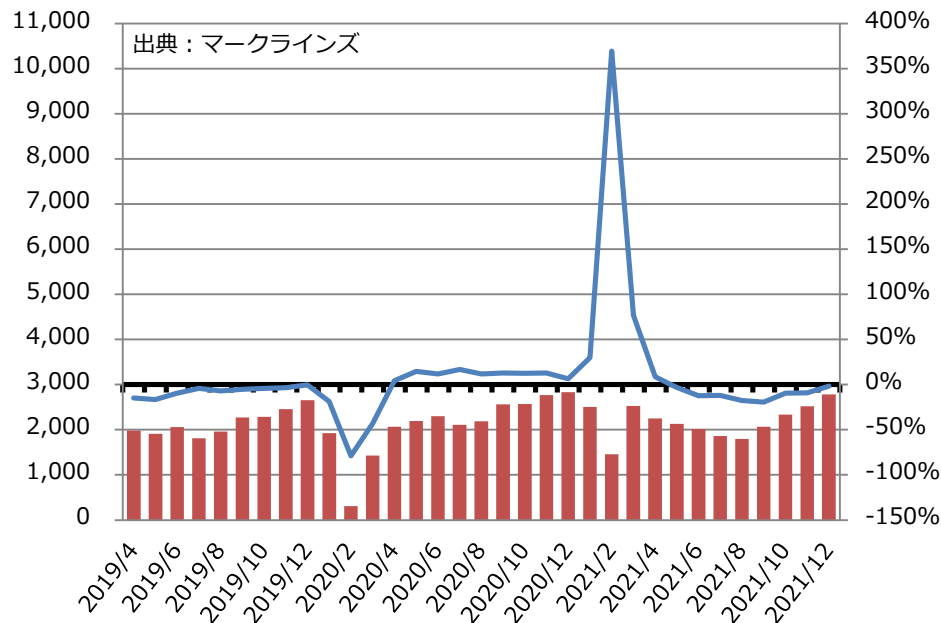


- ・ 2020/4を底に新型コロナウイルス影響による落込みから回復傾向
- ・ 2021/5 : 新型コロナウイルス影響再拡大により一時的に落込み
- ・ 2021/12 : 前年同月比 -4.6%

中国自動車販売台数(工場出荷台数ベース)

(前年同月比増減率)

(台数：千台)

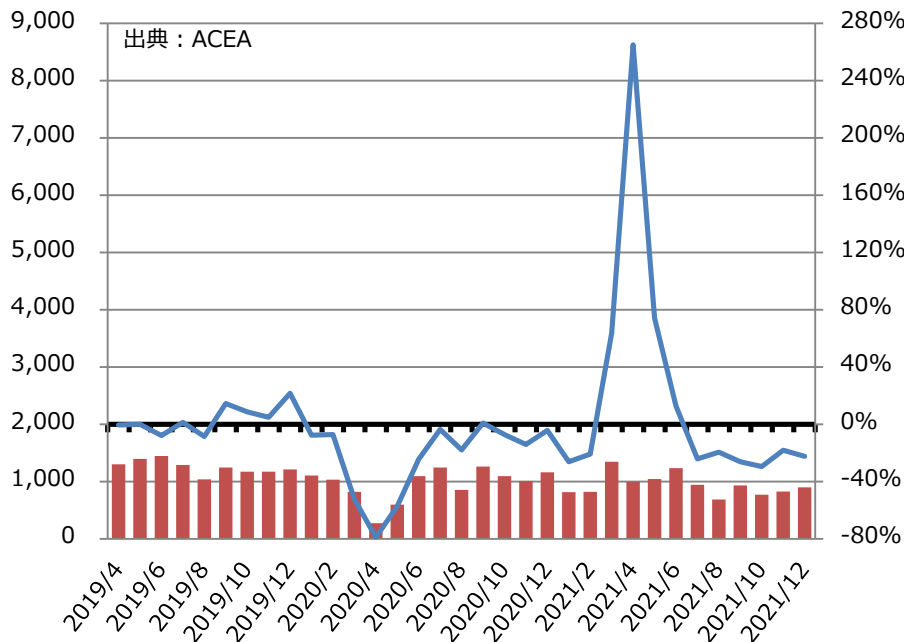


- ・ 2020/2を底に新型コロナウイルス影響による落込みから回復傾向
- ・ 2021/6 : 世界的な半導体不足による自動車生産減少影響で
前年同月比 -12.4%
- ・ 2021/12 : 前年同月比 -1.6%

自動車市場の動向

欧州自動車販売台数 (前年同月比増減率)

(台数：千台)

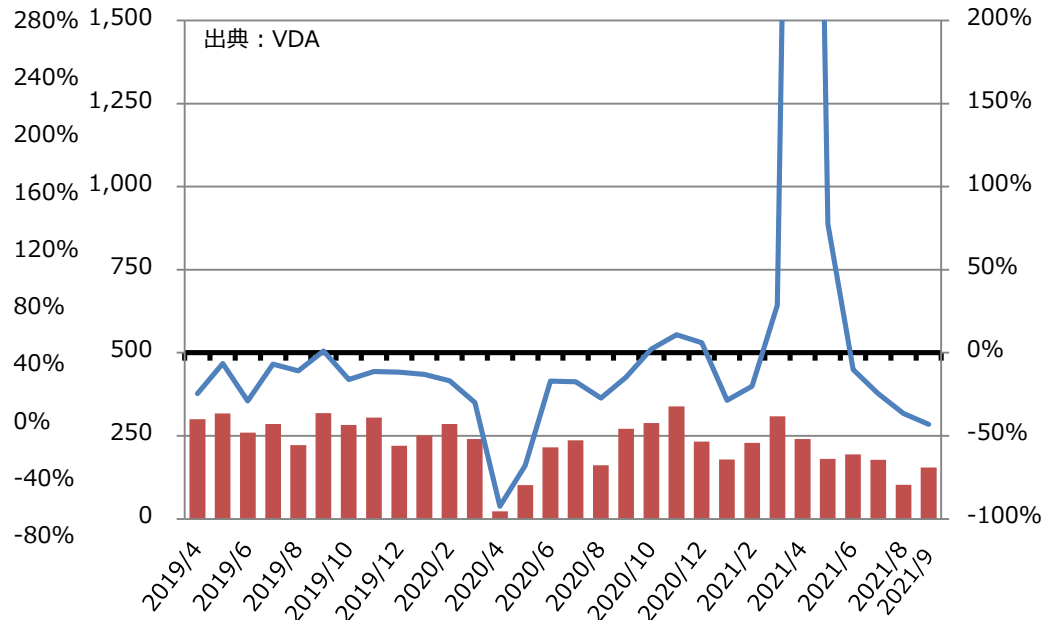


- ・ 2020/4を底に新型コロナウイルス影響による落込みから回復傾向
- ・ 2021/4 : 前年同月比 +265.0%(前年同月大幅減の反動)
- ・ 2021/12 : 前年同月比 -22.3%

ドイツ自動車輸出台数 (前年同月比増減率)

(台数：千台)

2021/4 前年同月比958.5%



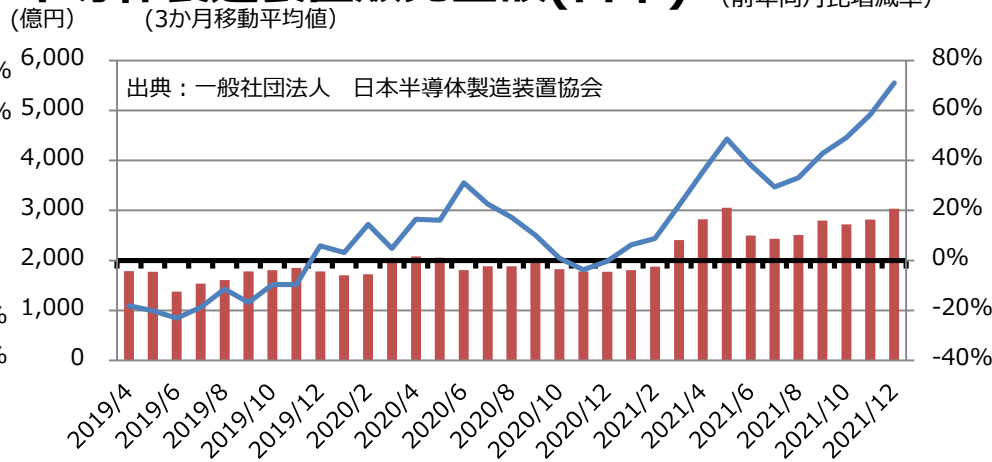
- ・ 2020/4を底に新型コロナウイルス影響による落込みから回復傾向
- ・ 2021/4 : 前年同月比 +958.5%(前年同月大幅減の反動)
- ・ 2021/9 : 前年同月比 -43.1%

産業機械・建設機械市場の動向

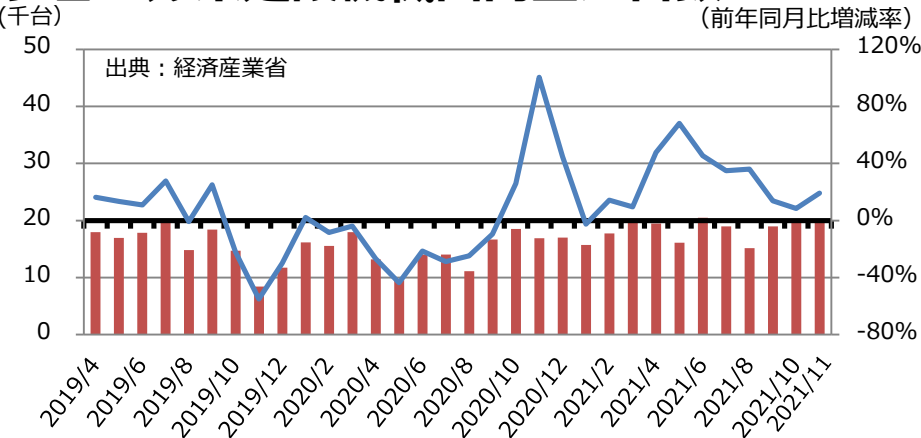
工作機械受注金額（日本）（前年同月比増減率）



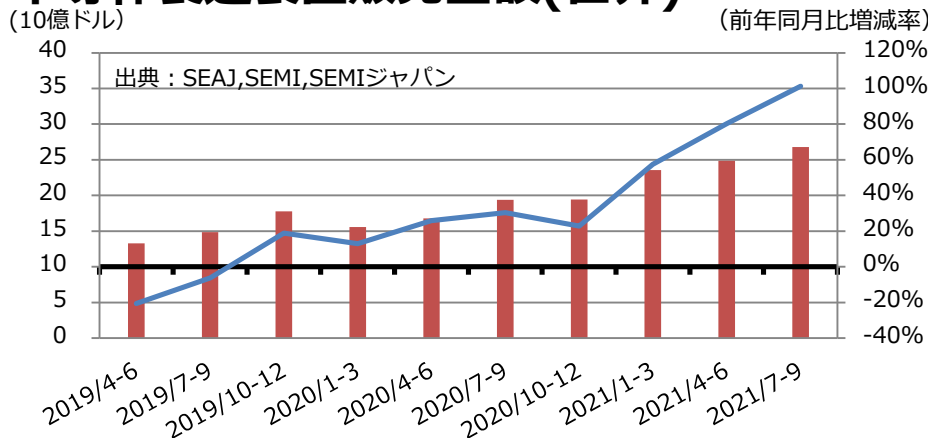
半導体製造装置販売金額(日本)（前年同月比増減率）



ショベル系建設機械国内生産台数



半導体製造装置販売金額(世界)（前年同月比増減率）



工作機械：新型コロナウイルス影響で2020/5に前年同月比-53%まで下落。足元では同+40.5%。
半導体製造装置：2020年7月以降、米中貿易摩擦の影響で日本では前年同月比減少傾向。
 2020/12以降は、5G普及による需要増、世界的な供給不足に伴うメーカーの増産投資意欲の高まりで回復。
 2021/12は前年同月比+71.0%。
建設機械：2020/2以降は新型コロナウイルス影響で前年同月比でマイナス推移。
 2020/10以降は中国や欧米での需要回復と前年の反動で前年同月比プラス。足元では同+19.2%。

特殊鋼需要の動向

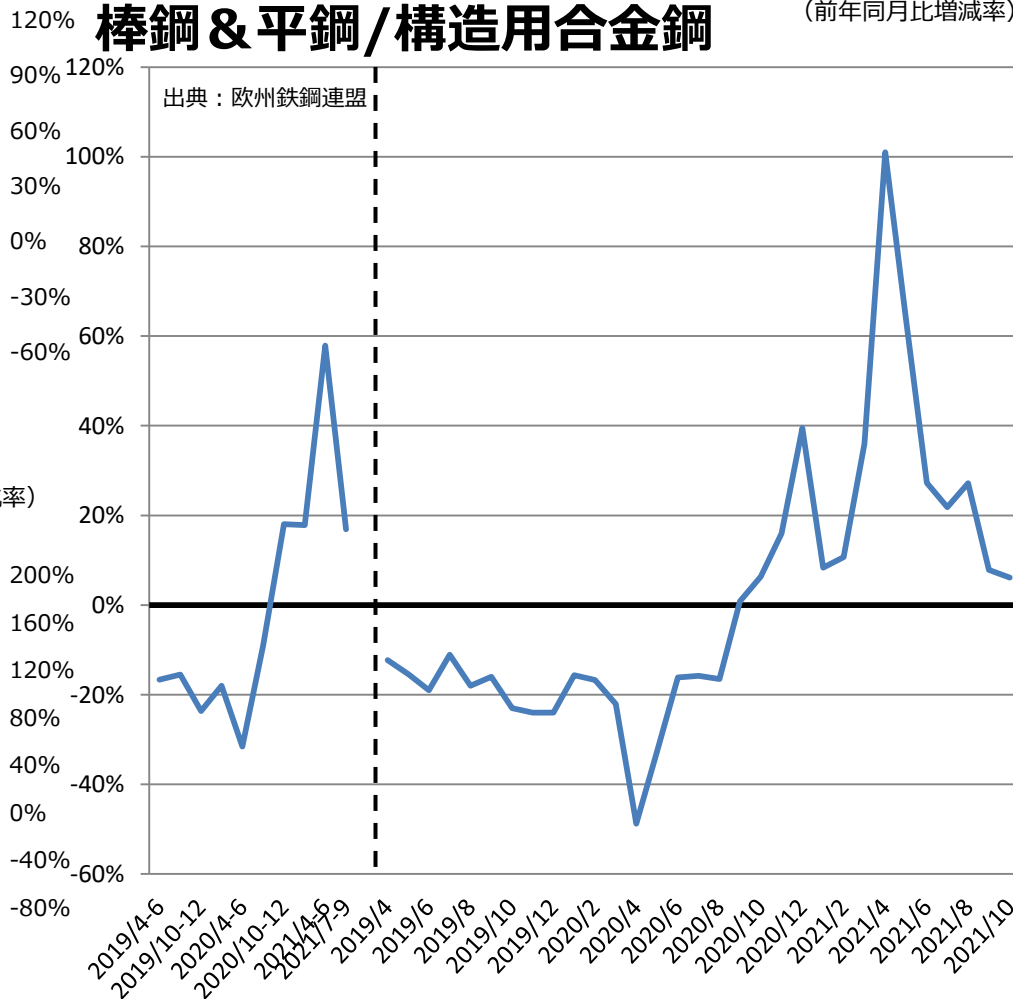
日本特殊鋼受注数量（特殊鋼）

(前年同月比増減率)



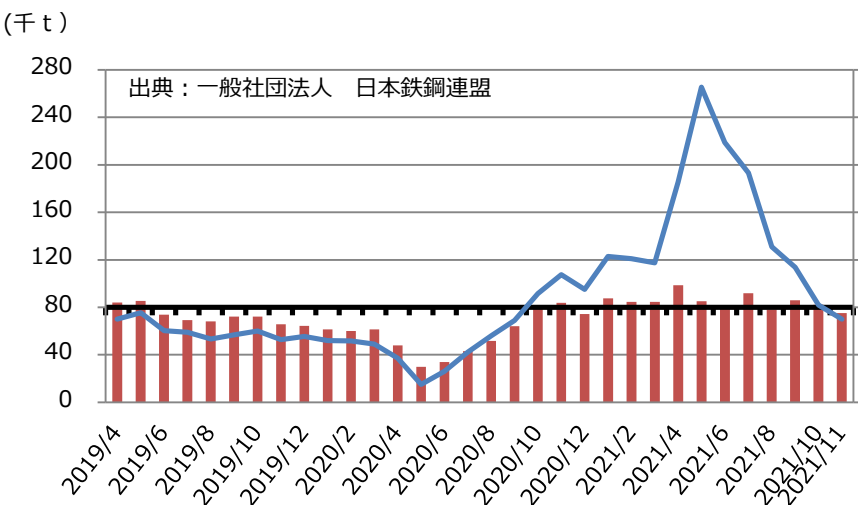
欧州デリバリー数量 棒鋼 & 平鋼 / 構造用合金鋼

(前年同月比増減率)



日本特殊鋼受注数量（軸受鋼）

(前年同月比増減率)

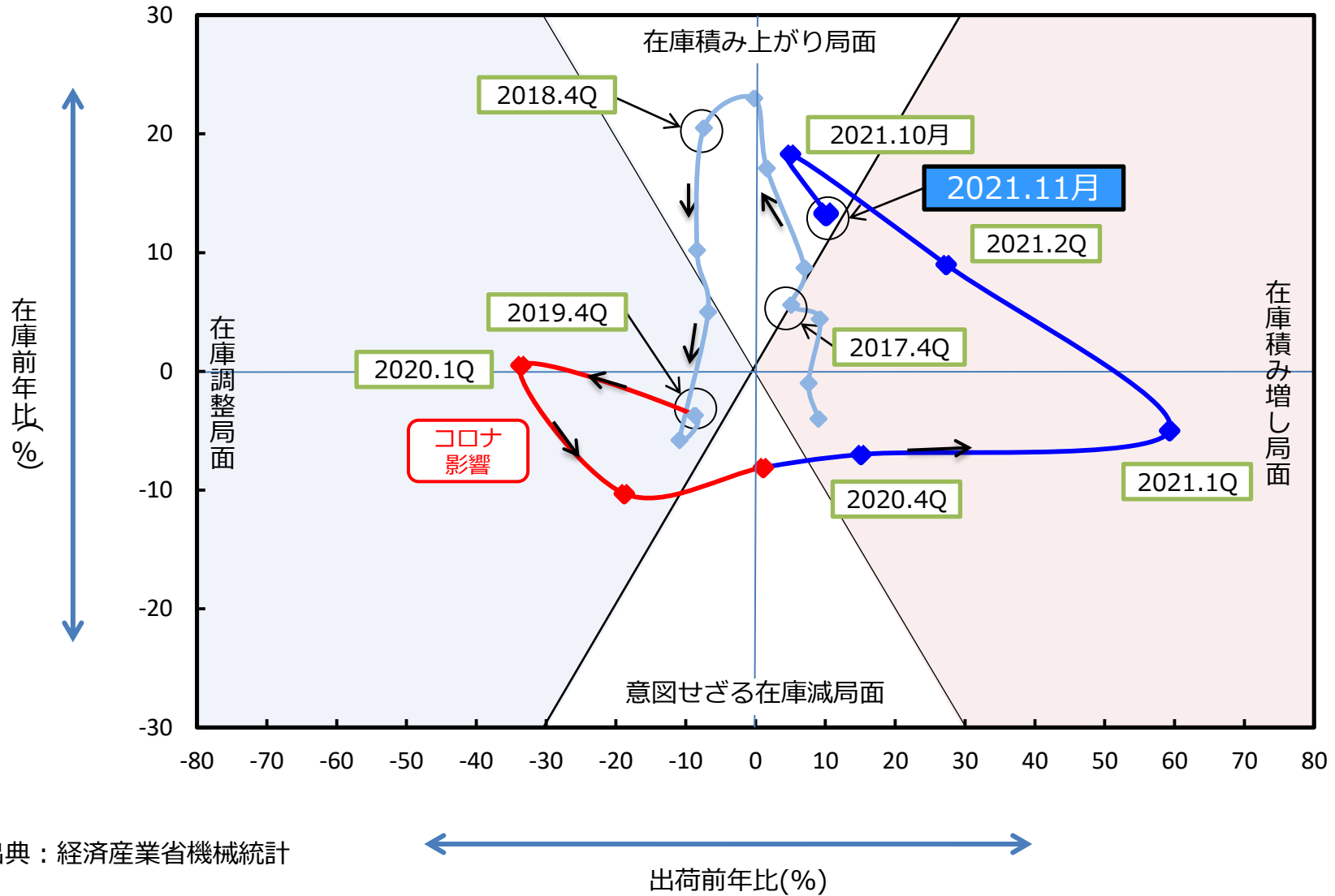


軸受鋼は、2020/5を底に新型コロナウイルス影響から回復。
足元、自動車減産、在庫調整影響が現出。
2021/11は前年同月比-10.1%。

2020/4に底打ちし、以降回復傾向。

2021/4は前年同期大幅減の反動で前年同月比 +101.0%。
2021/10は前年同期比で+6.1%。

軸受在庫循環図



出典：経済産業省機械統計

損益の詳細 (対2020FY/4-12月期)

(単位：千t、億円、円/株)

	2021FY/4-12月期 (A)	2020FY/4-12月期 (B)	増減(A)-(B)	増減率 (%)
売上数量	1,542	967	+575	+59.5
内、当社単独	763	478	+285	+59.6
内、Ovako(注1)	691	427	+264	+62.0
内、MSSS(注2)	88	62	+26	+41.7
売上高	2,693	1,487	+1,206	+81.1
内、当社単独	1,231	711	+519	+73.0
内、Ovako	1,293	654	+638	+97.5
内、MSSS	123	70	+53	+75.6
営業利益	144	▲65	+209	-
内、当社単独	69	▲8	+78	-
内、Ovako	89	▲21	+110	-
内、MSSS	6	▲9	+14	-
内、のれん償却費(注1)	▲27	▲19	-8	-
経常利益	145	▲67	+212	-
内、当社単独	75	▲5	+80	-
内、Ovako	86	▲24	+110	-
内、MSSS	3	▲11	+14	-
内、のれん償却費	▲27	▲19	-8	-
税後利益(注3)	102	▲59	+160	-
1株当たり税後利益	186.4	▲107.4	+293.8	-
のれん償却費を除く営業利益	171	▲46	+217	-
のれん償却費を除く経常利益	172	▲48	+220	-
のれん償却費を除く税後利益	129	▲39	+168	-
のれん償却費を除く1株当たり税後利益	235.8	▲72.1	+308.0	-

(注1) Ovakoおよびのれん償却費:2021FYは、1月～12月の12カ月の数値、2020FYは、1月～9月の9カ月の数値

(注2) MSSS: 1～9月の9カ月の数値 (注3) 親会社株主に帰属する四半期純利益

損益の詳細 (業績予想 2022/1/27公表) 対前回予想

(単位: 千t、億円、円/株)

	21FY上期 実績(A)	21FY下期 予想(B)	2021FY予想 (C) =(A)+(B)	21FY下期 前回予想	2021FY 前回予想(D)	増減 (C)-(D)
売上数量	1,079	928	2,007	930	2,009	-2
内、当社単独	511	499	1,010	510	1,021	-11
内、Ovako(注1)	511	366	877	351	862	+15
内、MSSS(注2)	57	62	119	69	126	-6
売上高	1,833	1,767	3,600	1,667	3,500	+100
内、当社単独	796	886	1,682	895	1,690	-8
内、Ovako	930	755	1,685	606	1,536	+149
内、MSSS	77	97	174	101	178	-4
営業利益	104	55	159	37	141	+18
内、当社単独	48	29	77	15	63	+14
内、Ovako	70	33	103	27	97	+6
内、MSSS	3	4	7	5	8	-1
内、のれん償却費(注1)	▲20	▲14	▲34	▲14	▲34	-
経常利益	105	55	160	35	140	+20
内、当社単独	52	31	83	16	68	+15
内、Ovako	68	32	100	24	93	+8
内、MSSS	2	3	4	3	4	-
内、のれん償却費	▲20	▲14	▲34	▲14	▲34	-
税後利益(注3)	73	35	108	18	91	+17
1株当たり税後利益	133.8		198.2		167.0	+31.2
のれん償却費を除く営業利益	124	69	193	51	175	+18
のれん償却費を除く経常利益	125	69	194	49	174	+20
のれん償却費を除く税後利益	93	49	142	32	125	+17
のれん償却費を除く1株当たり税後利益	170.8		260.6		229.4	+31.2

(注1) Ovakoおよびのれん償却費:

2021年1月~2022年3月の15カ月の数値(上期は1月~9月の9カ月、下期予想は10月~2022年3月の6カ月の数値)

(注2) MSSS: 1月~12月の数値

(注3) 親会社株主に帰属する当期純利益

TCFDシナリオ分析

当社は、パリ協定の長期目標達成に取り組む国際社会の状況等を踏まえ、TCFD提言に賛同しています。
 統合報告書「山陽特殊製鋼レポート 2021」では、TCFD提言に沿った気候関連情報の開示を行いました。



TCFD：金融安定理事会（FSB）が設置した気候関連財務情報開示タスクフォース（Task Force on Climate-related Financial Disclosures）です。

主な気候関連事象

想定される影響

当社の対応・戦略

需要業界等におけるカーボンニュートラル対応

2℃以下シナリオ

機会

・CO₂排出が相対的に少ない電気炉や需要家のCO₂削減に繋がる材料・技術、商品（鉄道用軸受鋼、耐元素ステンレス鋼等）の需要増

・需要家の部品製造や最終製品としての使用段階におけるCO₂排出削減に貢献するエコプロダクトの開発推進

EV化進展に伴う需要構造変化、自動車部品等の小型化・軽量化ニーズの高まり

機会

・電動化に伴う当社の高信頼性鋼へのニーズの高まり
 ・部品の小型化・軽量化に貢献する特性を持つ当社特殊鋼製品の需要増

・強みである高纯净度鋼を軸に、社会・産業構造の変化に伴う新たな顧客要求や環境課題への的確な対応
 ・需要家との連携強化によるサプライチェーン競争力強化

リスク

・自動車1台当たりの特殊鋼使用原単位の減少

再生可能エネルギーの拡大による風力発電市場の成長

機会

・風力発電設備のメンテナンス抑制や故障防止に繋がる当社の高信頼性軸受鋼の需要増

・風力発電に固有な環境下における疲労メカニズムの解明と長寿命・高信頼性を実現する風力発電用軸受鋼の開発および市場投入の推進

TCFDシナリオ分析

主な気候関連事象		当社の対応・戦略	
想定される影響			
電力・蓄電池需要の増加等による 鉱物資源の獲得競争激化			
2℃以下シナリオ	機会	<ul style="list-style-type: none"> レアメタルに依存しない当社の高機能材料へのニーズの増 レアメタル輸出規制等による副原料の調達不安定化 	<ul style="list-style-type: none"> 省希少資源高機能商品（ECOMAXシリーズ、Coフリーマルエージング鋼粉末等）の開発・提供の推進 副原料調達ソースの確保・拡大 調達サプライチェーン管理のさらなる充実
	炭素税等のカーボンプライシング導入		
	リスク	<ul style="list-style-type: none"> 電力や燃料等に対するコスト負担増 	<ul style="list-style-type: none"> エコプロセス、グリーンエネルギー活用等、エコソリューションによる当社グループのCO₂排出削減の推進 安価なカーボンフリー電力等の調達推進および鋼材の低（脱）炭素化価値やそのために必要なコストについて需要家の理解を得て販売価格に反映し適正マージンを確保 3社連携等を通じたグループ全体のコスト競争力強化
	機会	<ul style="list-style-type: none"> CO₂排出が相対的に少ない電気炉やその中でも脱炭素で先行するOvakoの相対的優位性向上 	
鉄鋼生産の電炉シフトや鉄スクラップ利用増			
リスク	<ul style="list-style-type: none"> グローバルでの上級スクラップ獲得競争激化 	<ul style="list-style-type: none"> 主原料調達ソースの拡大・確保および原料配合最適化 日本製鉄グループとの連携による原燃料調達コスト削減 	
4℃シナリオ	気象災害の多発・激甚化、平均気温の上昇、気象変化に伴う水資源減少や海水面上昇		
	リスク	<ul style="list-style-type: none"> 甚大な気象災害による生産設備被害や沿岸部拠点・倉庫への浸水、原材料・資機材調達や製品供給への支障等 熱中症等の健康被害や設備故障リスクの増大 水供給安定性低下等による操業支障 	<ul style="list-style-type: none"> 防災管理の充実、自然災害対策を含むBCM（事業継続マネジメント）の継続的な改善 損害保険の加入やグループCMS活用による復旧資金調達策の確保（実施済） 調達サプライチェーン管理の充実や高潮等を想定した水害対策の実施、自家工業用水源の維持（継続）

バリューチェーンにおけるCO₂排出量

当社の製造段階で発生するエネルギー起源CO₂排出量（Scope1,Scope2）および「環境省グリーン・バリューチェーンプラットフォーム」等を活用して算出したサプライチェーンにおけるCO₂排出量（Scope3）は以下の通りです。 （単位：万t-CO₂）

		2018FY	2019FY	2020FY
Scope1	自社の燃料使用に伴う直接排出	32.0	26.9	24.4
Scope2	他社で生産されたエネルギーの使用に伴う間接排出	45.7	30.5	25.4
Scope1+2	排出量	77.7	57.4	49.8
Scope3*	自社のサプライチェーンに相当するその他の間接排出			
①	購入した製品・サービス	34.4	26.5	24.3
②	資本財	2.8	6.7	3.1
③	Scope1,2に含まれない燃料 およびエネルギー関連活動	13.9	11.5	10.1
④	輸送・配送・上流	2.6	2.4	1.9
⑤	事業から出る廃棄物	0.4	0.4	0.3
⑥	出張	0.0	0.0	0.0
⑦	雇用者の通勤	0.3	0.3	0.3
⑮	投資**	11.1	30.4	26.0

* Scope3の算出に用いた排出原単位：環境省「サプライチェーンを通じた組織の温室効果ガス等の算出のための排出原単位データベース」

** 主要子会社のOvako(2019FY以降),MSSS,サントクテックの排出量に資本比率を乗じて算出

未来への信頼を担う

当社の掲げる「信頼の経営」は地球環境の未来を担う。その思いを大切に、山陽特殊製鋼はこれからも躍進を続けます。



SANYO SPECIAL STEEL - the Confident Choice

(ご注意)

本資料の業績予想等は、本資料の発表日現在において、入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績等は、今後様々な要因によって異なる結果となる可能性があります。いかなる確約や保証を行うものではありません。



「さんとくん」
(当社キャラクター)